

東京2020大会
英国代表チーム事前キャンプ応援サイト
GO GB 2020
アーカイブ
2018年8月～2022年2月



横浜市
川崎市
慶應義塾大学

趣旨

横浜市、川崎市、慶應義塾大学は、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプをホストとして受け入れました。3者で連携し様々な情報を発信することで、応援の機運を盛り上げるにあたり、英国代表チーム応援ウェブサイト「GO GB 2020」を立ち上げました。

この資料は、2018年8月にウェブサイトを立て上げて以降、2022年2月に公開終了するまで、本ウェブサイトに掲載された主な情報を後世に伝えるためにアーカイブするものです。

収録した情報の多くは、掲載当時の文章を載せており、所属・職名等も掲載当時のものです。あらかじめご了承ください。

※本ウェブサイトは、英語版でも同内容を発信しました(この資料では掲載を割愛)。

※GO GBコラム、ジュニア記者レポート、ニュース&イベントの各上部に記載された日付は本ウェブサイトへの掲載日を表しています。

02・・・目次

05・・・GO GBについて/GO GB応援ムービー/GO GBのあゆみ

事前キャンプを知る

06・・・ホスト紹介

07・・・施設紹介

英国代表チームを応援する

08・・・数字で見る英国代表チーム/リオ2016大会まで

09・・・数字で見る英国代表チーム/TOKYO2020 大会結果

GO GB コラム

10・・・事前キャンプを知ろう/川崎市等々力陸上競技場大公開!

12・・・事前キャンプを知ろう/国際レベルのプールの秘密に迫る!横浜国際プールってどんなところ?

14・・・英国代表チームを応援しよう/「横浜国際プール」で開催!ジャパンパラ水泳競技大会から学ぶ、パラ水泳競技の魅力

16・・・英国代表チームを応援しよう/【オリンピック競技編】東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて知っておきたい!英国代表チームのここがスゴイ!

18・・・英国代表チームを応援しよう/【パラリンピック競技編】東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて知っておきたい!注目するパラリンピック競技と英国パラアスリートを紹介

19・・・英国代表チームを応援しよう/高桑早生選手が海外で見る、日常に根付くパラスポーツの光景とは

20・・・英国代表チームを応援しよう/英国代表チーム(Team GB)器械体操選手にインタビュー

21・・・英国代表チームを応援しよう/英国選手団長ベニー・ブリスコーさん、パフォーマンス責任者トム・ポールソン博士が、東京2020大会に向けた抱負と期待を語りました!

23・・・ジュニア記者レポート/イギリス選手がやってきた!~「2018ジャパンパラ水泳競技大会」取材しました

25・・・ジュニア記者レポート/英国代表チームが横浜国際プールにやってきた! GO GB!! がんばれ、英国!

27・・・ジュニア記者レポート/すべての人をつつみこめる社会へ~英国パラリンピアンからのメッセージ「共生社会について考える」オンラインセミナーを視聴して

28・・・ジュニア記者レポート/ジュニア記者による2021年英国事前キャンプに関するインタビュー



ニュース&イベント

- 30・・・清家篤塾長が英国オリンピック委員会を訪問
東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式
- 31・・・英国オリンピック委員会ビル・スウィーニー最高経営責任者(CEO)が講演会を開催
英国トライアスロン、パラトライアスロンチームの選手たちと横浜市の小学生との交流会
- 32・・・東京2020英国パラリンピック代表チームの事前キャンプ覚書締結式開催
公立保育園での英国給食の提供と併せて英国交流イベント実施しました！
- 33・・・英国オリンピック委員会(BOA)の大視察団が日吉キャンパスを訪問
英国オリンピック委員会CEOによる講演会を横浜市と川崎市の合同主催により開催しました！
- 34・・・英国事前キャンプ・ホストタウン応援企画
「英国と横浜を知る講座～英国の共生社会文化から学ぶ～」を実施しました！
英国パラリンピック委員会が日吉キャンパスの施設を視察
- 35・・・アーチェリーとボート競技の英国選手が慶應義塾大学で合同練習
英国パラリンピック委員会(BPA)CEOのティム・ホリングスワース氏が長谷山塾長を表敬訪問
水泳の英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施
- 36・・・日吉キャンパスのバリアフリー施設の改善に向けて英国パラリンピック委員会と連携
マイク・シャロック英国パラリンピック委員会(BPA)新CEOが長谷山塾長を表敬訪問
- 37・・・きかんしゃトーマスとなかまたちが川崎市英国事前キャンプのPR大使に就任します！
英国陸上チームと、川崎の市立高校陸上部メンバーとの交流事業を開催しました
- 38・・・ローズ&ガーデンマーケットで英国事前キャンプホストタウンをPR!!
～英国と横浜をつなぐ親善大使のひつじのショーが大活躍!～
2019年英国トライアスロンチーム・パラトライアスロンチームとの交流
- 39・・・英国パラリンピック委員会(BPA)と川崎市は東京2020大会事前キャンプ施設利用に関する契約を締結しました
BOAスタッフと慶應義塾職員が準備会合を実施
英国オリンピック委員会(BOA)、パラリンピック委員会(BPA)が信濃町キャンパスを訪問
- 40・・・柔道の英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施
テコンドー英国代表チームが日吉キャンパスの施設を見学
【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第1弾!】横浜国際プールで英国水泳代表チームのプレ事前キャンプが行われました!
- 41・・・【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第2弾!】公開練習に総勢700名の子どもたちが参加しました!
【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第3弾!】英国水泳チームが日本文化を体験!
- 42・・・【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第4弾!】横浜国際プールが英国歓迎ムード一色に!
【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第5弾!】歓送セレモニーを行いました!
- 43・・・英国オリンピック委員会(BOA)の新CEO Andy Anson氏が長谷山塾長を表敬訪問
アンディ・アンソン英国オリンピック委員会新CEOが福田市長を表敬訪問されました
11月5日(火)英国オリンピック委員会(BOA)新CEOアンディ・アンソン氏が林文子横浜市長を訪問されました
- 44・・・ボート競技の英国パラリンピック代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施
トランポリンの英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施
- 45・・・～日英交流年「UK in JAPAN 2019-20」～BBCスコティッシュ交響楽団の演奏者と横浜市内の小学生が音楽で交流
川崎市立さくら小学校で英国交流イベントを開催しました

- 46・・・「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」募集結果について
英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」を募集しました！
- 47・・・「英国パラリンピック委員会選手団長講演会」が桐蔭横浜大学で行われました
英国コヴェントリー市のこどもたちが横浜を訪問！
- 48・・・朝原宣治氏と多川知希氏の講演より～GO GB 英国フェスティバル～英国をもっと好きになろう！～
- 49・・・東京2020大会延期に関する英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会
およびUKスポーツによる共同声明
- 50・・・カワサキテディ&ローズで、おうちから英国の応援をしよう
川崎市のホストタウン広報の取組が、ホスタウンアワードで「優良情報発信賞 大賞」を受賞
- 51・・・‘Dear Tokyo’ 東京2020オリンピック1年前～ Team GB からメッセージが届きました
- 52・・・ボランティアや市職員、川崎の子どもたちから 英国へ応援メッセージ動画を公開！
Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージで、
横浜から英国代表チームへ笑顔を贈ります
- 53・・・英国パラトライアスロンチームからのメッセージが届きました！～英国と横浜 映像でつながる絆～
- 54・・・「英国オリンピック委員会 マーケティング責任者オンライン講演会」が横浜商業高等学校で行われました
「英国をもっと知ろう」横浜市立北山田小学校でオンライン交流会が行われました
- 55・・・「英国の知見から学ぶ インクルーシブ・デザイン オンラインセミナー」を実施！
「英国パラリンピアンからのメッセージ ～共生社会を考える～」オンラインセミナー実施！
- 56・・・東京2020オリンピック・パラリンピック英国代表チーム
横浜市・川崎市・慶應義塾大学で事前キャンプを開始
- 57・・・安心・安全な事前キャンプ運営に向けた感染症対策
- 58・・・東京2020オリンピック・パラリンピック英国事前キャンプに向けて
英国オリンピック・パラリンピック代表チーム団長がコメントを発表
- 60・・・ようこそ英国水泳代表チーム！ 北山田駅前広場に「GO GB 2020」のデザインマンホール設置！
都筑区のオリンピック・パラリンピック教育推進校が英国オリンピック水泳代表チームと交流を行いました！！
東山田小学校の児童が英国オリンピック水泳代表チームをサプライズでお見送りしました！！
- 61・・・英国オリンピック代表チームが、川崎市等々力競技場での事前キャンプ期間中に公開練習を開催しました
英国代表チーム事前キャンプでボランティアの「おもてなし」が大好評
- 62・・・英国オリンピック代表選手から感謝のメッセージが届きました
英国パラ陸上選手にスクールバスを提供した市立田島支援学校に記念品が届きました
- 63・・・英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」感謝会が行われました！
事前キャンプでのボランティア活動を振り返る「サポーターサンクスデー」を開催しました
- 64・・・横浜初等部生と英国パラリンピック代表選手の交流会開催
英国代表チームから横浜市へ、感謝を含めた記念品が贈呈されました！
- 英国代表チームからの感謝のメッセージ**
- 65・・・英国オリンピック委員会最高経営責任者(CEO) アンディ・アンソン氏
英国パラリンピック委員会最高経営責任者(CEO) マイク・シャロック氏
- 66・・・奥付

GO GBを合言葉に英国代表チームを応援しよう！



横浜市・川崎市・慶應義塾大学は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チームの事前キャンプをホストとして受け入れました。

この3者はチーム「Friends of Great Britain」(フレンズ・オブ・グレートブリテン[英国])を結成。“GO GB(ゴー・ジービー:がんばれ、英国)”を合言葉に、市民、学生とともに英国代表チームを応援し、さまざまな活動を行っています。

事前キャンプとは

選手村に入村する前に、時差や気候に順応するため、またコンディション調整のために行われるトレーニングキャンプ。開催都市だけでなく、開催国内や近隣国で実施されます。



GO GB 応援ムービー

横浜市・川崎市・慶應義塾大学が「GO GB」を合言葉に英国代表チームを応援する動画を製作しました。



<https://youtu.be/wUsls3ebhQ4>



GO GB のあゆみ

- | | |
|-----------|--|
| 2016/1/20 | 東京 2020 オリンピック競技大会英国オリンピック代表チームの事前キャンプ地が横浜市・川崎市・慶應義塾大学に決定! |
| 2016/2/8 | 日本オリンピック委員会・横浜市・川崎市・慶應義塾大学が英国オリンピック委員会と覚書締結 |
| 2017/3/21 | 横浜市・川崎市・慶應義塾大学が英国オリンピック委員会と個別契約締結 |
| 2018/5/24 | 横浜市・川崎市・慶應義塾大学が英国パラリンピック委員会と覚書を締結 |
| 2021/7/1 | 英国代表チーム事前キャンプ入り |
| 2021/7/23 | 東京 2020 オリンピック開幕 |
| 2021/8/24 | 東京 2020 パラリンピック開幕 |
| 2021/9/3 | 英国代表チーム事前キャンプ終了 |

ホストからのメッセージ

2021年、横浜市・川崎市・慶應義塾大学のスポーツ施設に、さまざまな種目の英国トップアスリートたちがやってきます。

事前キャンプは、練習を積み重ねてきた選手たちが、東京 2020 オリンピック・パラリンピックで力を出し切るための、もっとも重要な最終調整の場。選手のみなさんが最高の準備をし、最高のパフォーマンスを発揮できるよう、私たちも最大限の協力をしていきます。

そして、この事前キャンプという機会は、英国ひいては世界の人々に、日本を、わたしたちの街を、大学を知ってもらう機会にもなります。市民や学生のみなさん一人ひとりにとって、新しい出会いや交流が生まれるかもしれない、またとないチャンスでもあります。

合言葉は、“GO GB”。わたしたちは、友人「Friends of Great Britain」として、英国代表チームを応援します。かけがえのない体験を、一緒に共有していきましょう。

横浜市・川崎市・慶應義塾大学



横浜市

横浜は、1859年の開港以来、世界の国々と日本をつなぐ港町として発展し、現在は人口377万人の日本最大の都市となっています。東京都心部から市の中心部まで約30km、羽田空港から約25kmと抜群の交通アクセスを持ち港に面した山手地区や中華街、みなとみらいは異国情緒漂う独特な雰囲気でも多くの観光客を惹きつける一方、歴史と自然豊かな丘陵地帯を擁するなど、多彩な面を持ち合わせています。

また、スポーツ、文化芸術、花と緑など、1年を通して市内各地で多彩なイベントに出会えるのも魅力の一つです。特に、横浜では2019年にラグビーワールドカップ2019™(決勝戦を含む7試合)、2021年には東京オリンピックの野球・ソフトボール競技、サッカー競技の実施が予定されており、国際的なスポーツイベントが連続して開催されます。世界から多くの方が訪れるこの機会に、横浜ならではのおもてなしと、交流の機会を創出していきます。

横浜市 webサイト <https://www.city.yokohama.lg.jp/> 横浜市観光情報 <https://www.welcome.city.yokohama.jp/>
横浜市オリンピック・パラリンピック推進課 <https://tokyo2020.city.yokohama.lg.jp/> (2022年3月末まで)



川崎市

川崎市は、東京と横浜に挟まれ、多摩川に沿って東西に細長く伸びる人口150万人を擁する全国有数の都市です。羽田空港からアクセスのよい市南部は、世界的企業や最先端の研究開発機関などが多く立地している一方、市北部は、多摩丘陵や生田緑地など豊かな自然に恵まれています。

芸術・文化の資源が豊富で、特に音楽では一年を通じ、アジア交流音楽祭やかわさきジャズなど、街なかで気軽に楽しめるイベントが開催されています。スポーツの面では、サッカーリーグの川崎フロンターレをはじめ、さまざまな強豪チームが川崎をホームタウンとして活躍しています。2020年には英国シェフィールド市との友好都市30周年を迎えました。英国事前キャンプの受け入れを通じて、次の世代へとつながるよう英国との交流を深めていきます。

川崎市 webサイト <http://www.city.kawasaki.jp/> 川崎市観光情報 <http://www.k-kankou.jp/>
川崎市オリンピック・パラリンピック推進室 <http://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/index.html>



慶應義塾大学

慶應義塾の起源は、1858年、福澤諭吉が江戸に開いた蘭学塾です。英国をはじめとする欧米諸国歴訪ののち、近代教育の必要性を痛感した福澤は、蘭学塾を英学塾へと転換、1868年に慶應義塾と命名しました。現在では、学生数約33,500人、10学部・14研究科を擁する日本有数の総合大学として、教育・研究・医療の分野で日々挑戦を続けています。

福澤は、体育教育の重要性にもいち早く注目しました。慶應義塾体育会は1892年に創設され、現在43団体が所属しています。今回英国代表チームにご提供する施設の一部は、体育会の練習場所でもあります。英国とのつながりは深く、15以上の英国の大学との交流協定を締結し、2011年からは毎年11月に、ブリティッシュ・カウンシルとの共催で、ロンドンにて英国の高校生・大学生向けに、日本留学フェアを開催しています。

慶應義塾 webサイト <https://www.keio.ac.jp/ja/> 慶應義塾公式 Facebook <https://www.facebook.com/KeioUniversity>
慶應義塾公式 Instagram(English-language) https://www.instagram.com/keio_university/?hl=en



※各競技の説明については、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会のwebサイト「競技」ページをご覧ください。
※事前キャンプ受入競技・期間は全て予定です。

横浜国際プール（横浜市）

事前キャンプ期間:【オリンピック】2021年7月12日～8月5日

受入競技:【オリンピック】競泳・アーティスティックスイミング・飛込(ダイビング)

「横浜国際プール」は、国内最大級の国際公認プールです。パンパシフィック水泳選手権大会、日本学生選手権などの世界大会・全国大会の開催はもとより、市民の体力づくりの場としても親しまれています。

約4,000席の観客席を擁するメインプールは、5月から9月まではプールとして、10月から4月は床が設置され、テニス、フットサルなどさまざまな競技のスポーツアリーナになるほか、プロバスケットボールリーグ「Bリーグ」横浜ビー・コルセアーズのホームアリーナとして賑わいます。他にもサブプール、トレーニングルーム、サブアリーナ、多目的ホール、会議室も備えた総合スポーツ施設です。

横浜国際プール webサイト <http://www.waterarena.jp/>



川崎市等々力陸上競技場・補助競技場（川崎市）

事前キャンプ期間:【オリンピック】2021年7月9日～8月2日

【パラリンピック】2021年8月14日～9月2日

受入競技:【オリンピック】陸上競技・サッカー・7人制ラグビー

【パラリンピック】陸上競技

川崎市等々力陸上競技場・補助競技場は、川崎市中原区の等々力緑地内にあります。等々力陸上競技場は、Jリーグ川崎フロンターレのホームグラウンドでもあり、試合の日にはスタジアム内がチームカラーの青一色に染まり、選手と市民が一体となった応援が行われます。プロの試合のほか、中高校生のサッカー公式戦や陸上などの競技場として利用され、試合のない日には一般の方々が利用しています。

等々力緑地は、等々力陸上競技場以外にもテニスコートやとどろきアリーナなどの運動施設、ふるさとの森などの自然と触れ合える施設、市民ミュージアムといった文化施設を有しており、1年を通じて多くの市民で賑わっています。

等々力陸上競技場 <http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/25-9-0-0-0-0-0-0-0-0.html>



慶應義塾大学 日吉キャンパス（横浜市）

事前キャンプ期間:【オリンピック】2021年7月8日～8月7日

【パラリンピック】2021年8月13日～9月1日

受入競技:【オリンピック】アーチェリー・ボクシング・柔道・ウェイトリフティング・バドミントン・フェンシング・ホッケー
テコンドー・バスケットボール・体操・近代五種・卓球 ほか

【パラリンピック】アーチェリー・テコンドー・パワーリフティング・柔道・車いすフェンシング

英国代表チーム(Team GBならびにParalympicsGB)の事前キャンプには、東急東横線・横浜市営地下鉄日吉駅前に広がる日吉キャンパスと、駅をはさんで反対側の下田地区(いずれも横浜市港北区)にある各種施設を提供する予定です。通常は、学生の体育の授業場所、慶應義塾体育会各部の練習場所の一部となっています。本大会競技会場などへのアクセスがよい上に、緑豊かな立地にあり、選手や選手を支えるスタッフのみなさんがリラックスして練習や準備に専念するために、最適の環境を提供したいと考えています。

受入競技はTeam GBで13競技程度、ParalympicsGBで5競技程度を予定。各競技種目の予選を経て、慶應義塾大学で事前キャンプを行うことになった種目の各代表選手は、選手村に移動するまでの期間、ここで最終調整を行うことになります。

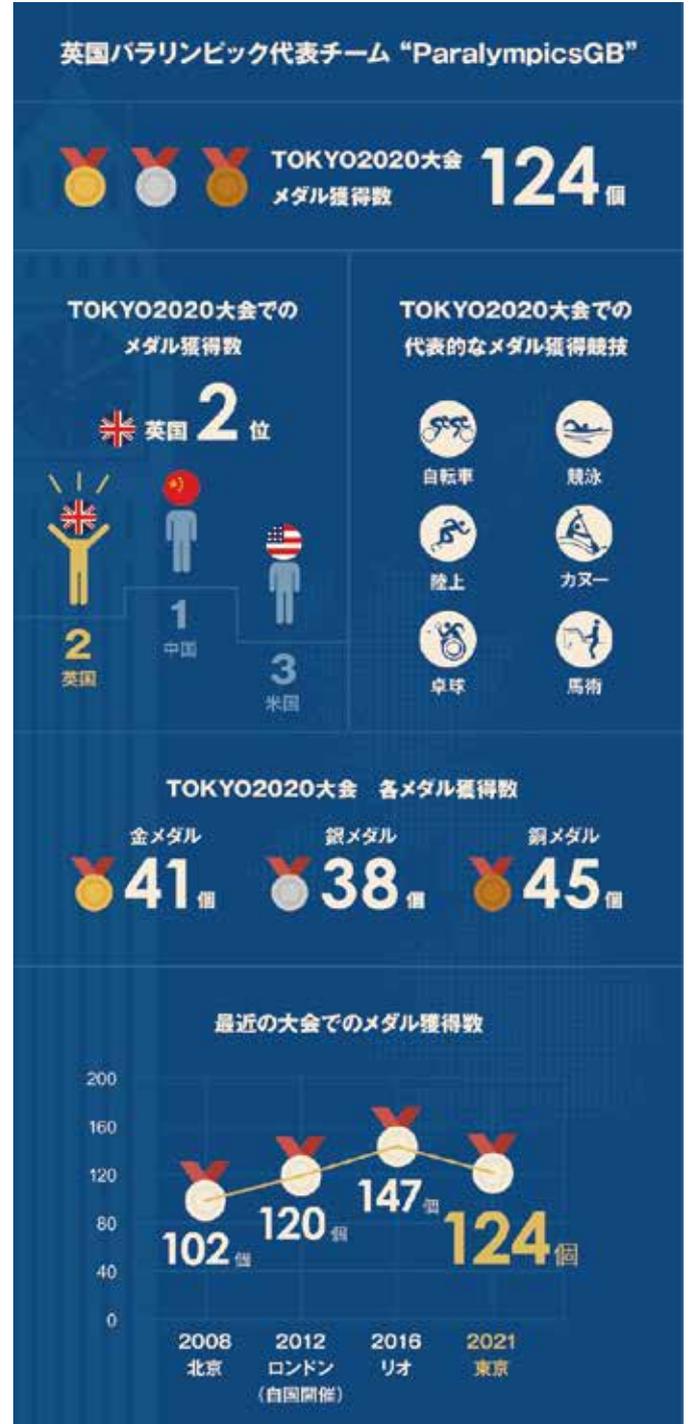
慶應義塾 webサイト <https://www.keio.ac.jp/ja/>



リオ2016 大会までの英国代表チームの活躍はこちら！



東京2020大会での英国代表チームの活躍を数字で見てください！



※2022年1月時点でのメダル数

2019/01/27 事前キャンプを知ろう

川崎市等々力陸上競技場大公開！

川崎市では、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チームの事前キャンプ地施設として、川崎市等々力陸上競技場及び同補助競技場が使用されます。

そこで今回は、施設の1つである「等々力陸上競技場」について、川崎市建設緑政局 等々力緑地再編整備室 陸上競技場整備担当の竹内さん、中原区役所道路公園センター管理課の原さん、等々力陸上競技場グリーンキーパーの芦野さんに、施設設備や、特徴についてお伺いするとともに、施設内も案内して頂きました。



まずは知っておこう！等々力陸上競技場の豆知識

— 川崎市等々力陸上競技場は、各種陸上競技大会やサッカー大会、川崎フロンターレのホーム戦など、様々な大会、試合が開催されていますが、まずは施設の特徴について教えてください。

原さん：

神奈川県内には日本陸上競技連盟公認の陸上競技場がいくつもありますが、等々力陸上競技場は現在、第3種公認で、今後、第1種公認を取得予定です。さらに、国際陸上競技連盟認証のクラス2を取得しています。ここまで取得しているのは神奈川県内では、日産スタジアムと等々力陸上競技場だけです。

ウサイン・ボルトや、オリバー・カーンなど世界的有名なアスリートも訪れています

竹内さん：

現在等々力陸上競技場では、英国代表チームの事前キャンプ施設で利用されることを見越して改修工事を行っています。トラックの色も現在のレンガ色から、青に変わります。近年大きな陸上大会が開催される競技場では青いトラックも増えてきていますね。前回リオオリンピック・パラリンピックの陸上トラックも青でした。

また、事前キャンプ受入競技となっているラグビーに関する整備として、ラグビーゴールも新設されることになっています。4年前のラグビーワールドカップから、競技人口やファンが増えています。等々力陸上競技場では13メートルのゴールを設置する予定です。



等々力陸上競技場ピッチの芝は日本でも1、2を争う短さ！

— サッカーなどで利用される等々力陸上競技場のピッチコンディションについてもお伺いしたいのですが、芝は年間を通してどのように管理されているのですか？

芦野さん：

ピッチは2種類の芝で形成されています。夏は青く冬は枯れる夏芝と、冬に青く春に向けて枯れていく冬芝を組み合わせ、1年中青い芝になるように整備しています。等々力陸上競技場ピッチ芝の特徴として、芝が短いことで知られていますね。事前キャンプに向けてラグビー、サッカー共に、選手に快適に練習して頂けるよう、芝の整備は十分に整えていきたいですね。

2019/01/27 事前キャンプを知ろう

英国代表チームへのメッセージ

竹内さん:

英国代表チームアスリートの皆さんがどうやったら満足して頂けるか、視察の際にはその都度ご意見を伺っています。川崎市オリンピック・パラリンピック推進室と協力し快適な事前キャンプ地となるよう、体制を整えていきたいですね。

原さん:

等々力陸上競技場はパラアスリートの皆さんが快適に過ごせる動線も整っています。事前キャンプ施設としての使い方は通常と異なるケースもあるかと思しますので、必要に応じて運営の仕方を検討し、安全快適な環境で練習に集中していけるように管理していきたいです。

芦野さん:

英国代表チームの選手が希望する芝の高さ、また競技毎に相性が良い芝コンディションは異なりますので、どの受入競技でも快適に練習できるよう、整備をしていきたいです。

——竹内さん、原さん、芦野さん、貴重なお話ありがとうございました。

2019/04/09 事前キャンプを知ろう

国際レベルのプールの秘密に迫る！ 横浜国際プールってどんなところ？

横浜市にある横浜国際プールは、東京2020オリンピック・パラリンピック英国代表チームの事前キャンプ施設です。国際公認プールとしても知られており、イアン・ソープや北島康介といったトップスイマーが参加したパンパシフィック水泳選手権大会をはじめ、数々の国際大会を開催してきました。

今回は、横浜国際プール指定管理者であるコナミススポーツ株式会社のマネージャー 阿部弘美さんに、施設の特長や英国代表チームの受け入れ体制についてお話を伺いました。



地域に愛される施設として、国際公認プールとして

阿部さん：

横浜国際プールは、市民の皆さまが利用されるスポーツ施設であり、国際公認プールとして国内外の大規模な大会を開催する総合競技場でもあります。私はマネージャーとして約100人のスタッフと共に、ふだんのお客さまの対応と安全面の管理、大規模な大会開催時の準備と運営全般を担当しています。

定期的に通ってくださる顔なじみの方も多く、ふだんから皆さまにお声がけしながら体調面の配慮やコミュニケーションを心がけるようにしています。



夏季はメインプール、冬季はスポーツフロア

阿部さん：

横浜国際プールのメインアリーナは、夏季5月～9月はメインプールとして、冬季11月～3月はスポーツフロアとして使用する、非常にめずらしい施設です。プールからフロアへ転換するには、時間をかけてゆっくりとプールの水を抜く必要があるため、約1か月の転換期間を設けています。



国際公認プールとしての大会開催を、 見えない部分で支える専門スタッフの存在

— 国際公認プールとして、どのような点に注意を払っていらっしゃいますか？

阿部さん：

“プールの水は生きもの”です。毎日毎時間、水のコンディションは変わります。国際公認プールとしては当然ですが、コンディション維持はもちろん水が抜けたり機械の不具合があったりしてはなりません。専門スタッフ20名が、プールの室温・水質・水温・水深などの管理を常時行っています。実は、プールの水温を上げるのは大変難しいことなので、夜間も水温チェックが欠かせません。また室温と水温の差が激しいほど寒暖差を感じやすいので、空調管理も大切な仕事のひとつです。スタッフ全員で、安全・安心な競技場の運営、維持に努めています。



2019/04/09 事前キャンプを知ろう

英国代表チームを迎え入れるために さまざまな準備を行なっています

— 英国代表チームを受け入れるにあたり、施設面では今後どんな準備を予定していますか？

阿部さん：

英国チームや一流アスリートならではの準備も必要となるので、英国チームとともに調整を進めています。2018年度には、競泳用のスタート台やコースロープも更新しました。今後、一般利用者の皆様にも、より充実した設備となる予定です。

今年1月には、横浜国際プール・都筑警察署・都筑区役所・都筑消防団・都筑消防署などの関係機関・約150名が参加し、横浜国際プールにおけるテロ災害を想定した訓練を行いました。万全な安全対策を施すために、関連機関で協力しています。

また、エントランスホールでは、英国についてのパネル展示と、東京2020オリンピック・パラリンピックのカウントダウン表示で、英国代表チームお迎えの雰囲気盛り上げています。

「つづきジュニアタイムズ」でも、横浜国際プールで開催されたジャパンパラ水泳競技大会の様子を取材していただきました。



英国代表チームへのメッセージ

阿部さん：

英国代表チームの皆さんが、日本の環境に一日も早く馴染んで調整できるように、我々スタッフも精一杯お役に立ちたいと考えています。日本らしいきめ細やかなおもてなしの精神でお迎えしたいですね。英国代表チームのアテンドに備えて、今後英語のレッスンも考えています。

事前キャンプは、横浜や横浜国際プールの魅力を知ってもらうよい機会です。この得難い体験を、横浜市民の皆さまと一緒に共有していきたいと思ひます。



2019/09/19 英国代表チームを応援しよう

「横浜国際プール」で開催！ ジャパンパラ水泳競技大会から学ぶ、パラ水泳競技の魅力

東京2020大会・英国代表チームの事前キャンプが予定されている横浜国際プールにおいて、2019年9月21日(土)から23日(月・祝)まで『天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラ水泳競技大会』が開催されます。昨年の大会には海外8カ国から41名のトップパラスイマーが参加しており、国際的な大会としての注目度もアップしています。そこで今回は、来年に迫った事前キャンプ、そしてパラリンピック本番を前に開催されるこの大会の見どころや、さらには東京2020大会への出場が予想されるイギリスの有力スイマーを紹介していきます。



ジャパンパラ水泳競技大会を楽しむための基礎知識

『ジャパンパラ水泳競技大会』は、パラリンピックや世界選手権をめざすトップレベルの選手のための大会として1991年から開催されている、国内最高峰のパラ水泳大会です。大会記録が国際公式記録として認定される、日本では数少ない国際公認大会でもあり、2018年大会にはイギリス、アメリカ、カナダ、メキシコ、コロンビア、スペイン、オーストラリア、ニュージーランドの8カ国から41名の選手が参加。国際大会としての色合いを濃くしています。

競技は基本的に国際水泳連盟のルールに則っており、使用するプールの規定や競技種目(自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ)も同じですが、障害の種別や程度ごとに「クラス分け」が行われ、男女別に同程度の競技能力を持った選手同士で順位が競われています。

障害種別とそのレベルは数字で分けられ、1から10までが身体障害、11から13までが視覚障害、14が知的障害、15が聴覚障害となっており(その下にも比較的軽い障害のクラスが設置されている)、数字は障害の程度が重いクラスから軽いクラスへと増えていきます。また競技種目は自由形・背泳ぎ・バタフライをS、平泳ぎをSB、個人メドレーをSMと表記することから、例えば「SB1」は「身体障害の程度が最も重い選手による平泳ぎ」のクラスを示していることとなります。

さらに、可能な限り一般の水泳競技規則に則った競技運営が行われるものの、障害によりやむを得ない場合には特別なルールも用意されています。例えば飛び込みスタートが難しい選手には、水中からのスタートが認められていたり、プールの壁を視認できない視覚障害の選手には、コーチがゴールやターンの直前に棒で選手の身体をタッチすることで壁が近づいていることを選手に伝えるようにしたりというものです。

これらのクラス分けやルールは基本的に東京2020パラリンピックの水泳競技でも共通するもの。本番前の基礎知識を得るうえで、ジャパンパラ水泳競技大会を会場で体感するのは意義深いことといえます。



障害と向き合い勝ち得た、個性的な泳法を見る魅力

クラス分けやルールのみならず、ジャパンパラ水泳競技大会を現地で観戦することで感じ取れる、パラ水泳競技の魅力もあります。それは障害を抱えながらも、0.01秒を争う選手たちの努力により勝ち得た工夫や技術を発見することです。

障害の種別や程度は選手それぞれで異なるため、最適な泳ぎ方も選手により変わります。例えば、片腕や片脚が欠損している選手や片半身がまひで動かない選手にとっては、左右の推進力や浮力がまったく違うため、まっすぐに泳ぐこと自体が困難なことです。それを一般的な泳法を参考に、自分の身体に合っていて、しかも一番速く泳げる方法をトライ&エラーを重ねながら見つけていくのです。

ですから同じ競技でも、その泳法は非常に個性的。そこに至るまでの練習での苦労や、なぜその泳法にたどり着いたかなどに思いを巡らせることで、純粋なスポーツとしてのパラ水泳競技の魅力に深みが増すことでしょう。タイムの裏側にある、パラスイマーたちの“ドラマ”を感じ取ってください。



2019/09/19 英国代表チームを応援しよう

東京2020大会にも来日？ 英国の注目パラスイマー

水泳競技は、パラリンピックの中でも花形競技のひとつ。1960年に開催された第1回ローマ大会から正式競技として行われています。

そして英国チームは、アメリカ、中国、ウクライナなどと並ぶ強豪国であり、2016年のリオデジャネイロパラリンピックでは、計16個(男子6個/女子10個)の金メダルを獲得しています。

東京2020大会でも活躍が期待される英国パラ水泳チーム。今回のジャパンパラ水泳競技大会には、残念ながら出場できませんが、これまでに輝かしい実績をあげている注目選手を紹介しましょう。

ベサニー・ファース(Bethany Firth)

リオデジャネイロパラリンピックで金メダル3個(100m背泳ぎS14、200m自由形S14、200m個人メドレーSM14)、銀メダル1個(100m平泳ぎS B14)を獲得した、英国を代表する女性パラスイマー。中でも100m背泳ぎS14では世界新記録をマークし、圧倒的な強さを見せました。



ステファニー・ミルワード(Stephanie Millward)

1981年生まれのベテラン選手ながら、リオデジャネイロパラリンピックでは7種目に参加し、金メダル2個(100m背泳ぎS8、4x100mメドレーリレー)、銀メダル1個(200m個人メドレーSM8)、銅メダル2個(100m自由形S8、400m自由形S8)を獲得した、英国パラ水泳界のレジェンドともいえる女性スイマーです。



トニー・ショー(Toni Shaw)

2003年生まれの16歳という若さながら、2018年のヨーロッパ選手権400m自由形S9で優勝し、同種目における当時の世界ランキング1位を獲得した成長株の女性スイマー。昨年のジャパンパラ水泳競技大会で来日し、400m自由形S9では2位に7秒以上の差をつける圧倒的な強さで優勝しています。



リース・ダン(Reece Dunn)

今年に入り2つの世界新記録(100m自由形S14、200m自由形S14)をマークした、現在上り調子の24歳の男子スイマー。東京2020大会に向けて彼がどんな調整をしてくるのか、注目が集まっています。



これからレベルの高い代表争いを控えているので、この選手たちが東京2020大会に出場するかはもちろん未確定ですが、もし選ばれるとすれば金メダル争いに食い込んでくる実力者ばかりです。

ジャパンパラ水泳競技大会をきっかけにパラ水泳競技に興味を持ち、本番となる2020年東京での英国選手たちの活躍を応援してみたいかがでしょうか。

2019/09/24 英国代表チームを応援しよう

【オリンピック競技編】東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて 知っておきたい！ 英国代表チームのここがスゴイ！

横浜市・川崎市・慶應義塾大学は、東京2020オリンピック・パラリンピックに出場する英国代表チームの事前キャンプをホストとして受け入れています。そこで、日本のトップアスリートやオリンピック競技指導者の方々に英国代表チームの活躍が期待される競技の見どころや、注目選手について語っていただきました。今回はオリンピック競技編です。

アテネ金メダリストが語る若き英国代表体操チームの勢い

「今の英国代表体操チーム全体の状況は、現在の日本代表ととてもよく似ています」そう話すのは、アテネ2004大会男子団体金メダリストで、リオデジャネイロ(以下リオ)2016大会では指導者としてチームを牽引して王者に導いた水鳥寿思日本体操協会男子強化本部長です。英国代表チームが練習を行う慶應義塾大学総合政策学部の専任講師(総合政策学部)でもあります。水鳥本部長へお話を伺いに出かけた日は、日本代表チームが東京・北区にある味の素ナショナルトレーニングセンターで熱い練習を繰り返していました。

「英国代表チームと日本代表チームの共通点は、メンバーが良い意味で今まで頑張ってきたベテランから若手に切り替わりつつあって、勢いがあり、活気づいているということです」慶應義塾大学日吉キャンパスで行われた英国代表チームのトレーニングキャンプにも見学に行き、改めて確信したと話します。

「とは言え、注目しているのはやはりベテランのMax Whitlock MBE(マックス・ウィットロック)選手です。日本で言うとちょうど内村航平選手のような存在ですね」と教えていただきました。残念ながら、今回の慶應義塾大学でのトレーニングキャンプには参加していなかったとのことですが、チームをロンドン2012大会で団体3位、リオ2016大会では4位に牽引した立役者です。リオ大会では個人総合3位、あん馬と床の個人種目の金メダリストでもあります。

「若手のJames Hall(ジェームス・ホール)選手やNile Wilson(ナイル・ウィルソン)選手なども台頭してきています。英国が凄いのは、自国五輪開催だった2012年のロンドン大会より、4年後のリオ大会で全体のメダル獲得数を増やしアメリカに次いで2位の67個、体操競技全体のメダル数も7個と、日本の3個を大きく上回るどころです。国営宝くじからの資金援助を受けるなど、選手の強化資金などに充てています」体操の世界のトップ5はアメリカ、中国、ロシア、イギリス、そして日本です。水鳥本部長は「どこも仕上がって来ていますが、日本も強いですよ、負けません」とのこと。

最後に、体操競技観戦の見どころについて伺いました。「体操は個人競技なのに団体戦もある、他に類を見ない競技です。その熱い闘いと共に体操自体の力強さ、美しさも満喫して欲しいですね。さらに、その時点での選手の持ち点によって、競技内容のパターンを変えたりする駆け引きがあるなど、見どころ満載です」

水鳥 寿思氏/アテネ五輪団体金メダリスト。2005年メルボルン世界選手権個人総合銀メダル、07年シュトゥットガルト世界選手権団体銀メダル、個人総合銅メダル、ゆか、鉄棒銅メダルなど。史上最年少の32歳で日本体操協会体操男子団監督・強化本部長、15年世界選手権では37年ぶりの、リオ五輪では五輪12年ぶりの金メダルにチームを導いた。慶應義塾大学総合政策学部専任講師。公益財団法人日本体操協会男子強化本部長、常務理事。公益財団法人日本オリンピック委員会選手強化本部常任委員など。



7人制ラグビーも強豪な英国代表チーム

川崎市が受け入れる競技の1つ、7人制ラグビー。7月のヨーロッパ予選で男女ともにイングランド代表チームが優勝し、英国代表チームが東京2020オリンピックへの出場を決めました。

「7人制ラグビー発祥の地の誇りもあり、絶対に負けられないという意気込みで乗り込んで来るでしょうね」と、教えてくれるのは、CAP41で元ラグビー日本代表、7人制ラグビー元日本代表監督でもあった専修大学の村田亘ラグビー部監督です。

世界最強はフィジーと言われていて、初めて7人制ラグビーが採用されたリオオリンピックでも優勝していますが、それに次いで銀メダルが英国でした。強豪国は他に、銅メダルだった南アフリカ、ニュージーランドなどがいます。日本もリオでは予選でニュージーランドに勝利する等、大健闘して4位入賞を果たしています。

「7人制は、時にメンバーが15人制と被ることもあり、メンバーが固定出来ないことも、難しいところの1つでもあります。なので、現在も、英国代表チームの全容はまだ見えていません」とも。とは言え、英国代表チームは伝統的に大柄でフィジカルが強く、セットプレー、ラインアウトなどで上手さを見せるそうです。

その中でキープレーヤーを伺いました。「Dan Norton(ダン・ノートン)選手です。彼はトライゲッターですが、抜群に速い足を活かすのが特徴です。特に、短距離での速力は陸上の100m選手並みです。例えば、私が持っているデータで、あのウサイン・ボルト



2019/09/24 英国代表チームを応援しよう

選手とのタイム比較では、40mまではダンの方が速いです」村田監督のお手持ちの資料によると、ポルトVSダンは20m:ポルト2.89秒・ダン2.70秒、40m:ポルト4.64秒・ダン4.62秒。

15人制と同じ広さのグラウンドを7人で駆け巡るのですから、同じラグビーと言っても、内容は異なります。「ラグビーよりも個人の華麗なステップワーク、長くて正確なパス回しなどが重要になってきます。そして、そこに注目すると、またとても面白く競技が楽しめます。英国代表チームはキック、パスの精度も高く、ラインアウトも大変高い位置で取るので、そこも面白いですね」

とにかく前半7分、後半7分、グラウンド中を全力で駆けるスポーツ。しかも、同じチームが1日に何試合もゲームを行います。試合の面白さもありますが、もう1つ香港セブンス大会を中心とした、観客たちの華やかなコスプレを見る楽しみもあると村田監督は指摘します。ピンクや黄色のアフロヘアのかつらや、色とりどりの思い思いの衣装が観客席を埋め、観客もノリが良く、15人制とは、全く違う雰囲気を出します。英国をイメージしたコスプレで、是非、応援に出かけてみてはいかがでしょうか。

村田 瓦氏/専修大学体育会ラグビー部監督。元7人制ラグビー日本代表監督。東芝府中、ヤマハ発動機などでプレーヤーとして活躍。日本代表 CAP41。フランス、アピロン・バイヨンヌと日本人初のプロ契約。ポジションはスクラムハーフ。筑波大学大学院人間総合科学研究科修士課程修了スポーツ健康システムマネジメント専攻。体育学修士取得。ヤマハ発動機スポーツ振興財団審査員。磐田市スポーツアドバイザー。

東京2020大会出場最有力！ 高橋侑子選手が見たトライアスロン王国・英国

最後は、横浜市で世界大会が開催されているトライアスロンです。東京2020大会への出場が期待されている、高橋侑子選手に英国のトライアスロン事情について伺いました。

高橋選手は小学生時代からトライアスロン大会に出場し始め、これまでに数多くの表彰を受けています。「東京・調布の桐朋女子中学校に進学、陸上部に所属する傍ら、中学3年時にジュニアの全国大会で優勝したのを機に本格的にトライアスロンに取り組み始めました。2017年からインターナショナルチームでの活動を始め、海外の拠点・コーチのもと、海外の選手たちと共同生活をしています。世界シリーズを中心に転戦をしながら東京2020大会を目指しています。」

2019年5月に横浜で行われた10周年記念の世界シリーズでは、日本人最高位の4位入賞を果たしています。英国は国際大会でほぼ毎年訪れているとのこと。

「英国ではトライアスロンの認知度が高く、大会はいつも盛り上がるので、レースをしていてとても楽しいです」また、英国は選手層が厚く、強くて、気になる選手が沢山いますと教えていただきました。「どの選手もいつも笑顔でとてもフレンドリーですが、いったんレースがスタートすると、とてもアグレッシブで、強さの秘訣がどこにあるのか気になります」とも。

注目選手を挙げてもらいました。

- ・Jessica Leamonth(ジェシカ・リーマンズ)スイムが速く、いつもレースを引っ張っている。Jessica選手の流れに乗れるかがいつも重要となっている。

- ・Georgia Taylor-Brown(ジョージア・テイラーブラウン)バイク、ランが強く、世界シリーズで何度も表彰台に乗っている。

- ・Non Stanford(ノン・スタンフォード)ランが強く、とてもタフな選手。

- ・Vicky Holland(ヴィッキー・ホーランド)昨年の世界シリーズチャンピオンでリオ五輪のメダリスト。

過酷と表現される競技ですが、乗り越えた先には達成感が強くあり、何よりも歳を重ねても続けていけるスポーツで、楽しみながら挑戦できるところがトライアスロンの醍醐味と言えます。「この競技は3種目あり、特に種目の切り替えや展開が変わるところがトライアスロンならではの面白さなので、そこにも注目して見ていただきたいです」と、目を輝かせて教えてくれました。

高橋 侑子選手/トライアスロン選手。富士通所属。2019年第1期 JTUエリート強化指定。女子エリート強化指定 O-2。桐朋女子高等学校・法政大学出身。□主な戦績: 2019年 WTS横浜4位、18年 WTSバミュダ、SLマヨルカ、WC ニュープリスマ(ニュージーランド) など全て5位。17年アジア選手権パレンバン(インドネシア) 優勝など。

高橋侑子サポーターズクラブ <http://www.takahashiyuko.com/supporters-club.html>



2019/12/20 英国代表チームを応援しよう

【パラリンピック競技編】東京2020パラリンピックに向けて知っておきたい！ 注目するパラリンピック競技と英国パラアスリートを紹介

東京2020大会まで1年を切りました。様々なメディアを通して各パラリンピック競技や、日本のパラアスリートを知る機会も増えています。そこで今回は、日本のトップパラアスリートや、パラスポーツ競技関係の方々に、英国代表チームの活躍が期待されるパラリンピック競技の楽しみ方や、注目選手について伺いました。

高桑選手が語る、パラスポーツの楽しみ方

まずは、パラスポーツ陸上競技短距離、走り幅跳びの選手である高桑早生選手（慶應義塾大学卒）に、パラ陸上の見どころについてお話を伺いました。高桑選手はロンドン2012大会、リオ2016大会に出場し、ロンドン2012大会では、初出場にして、T44クラスで100m7位、200m7位入賞を果たしました。

「日本において、パラリンピック競技の観戦を楽しむということがより浸透し始めたのは、リオ大会で初めてパラリンピックに中継が入った時からだと思います。大会後、帰国すると多くの方から「観たよ！」と声を掛けられるようになり、歴史的な変化を感じました」と、高桑選手は語ります。

そこで、高桑選手にパラスポーツ観戦を楽しむポイントを教えていただきました。

①パラスポーツは新しいスポーツを観る感覚で楽しむ。②まずは自分が好きなスポーツから観戦してみる。③オリンピック競技にはない、パラリンピックならではの競技を楽しむ。④自分のスターを見つける。高桑選手自身もパラスポーツの大ファンであり、パラ水泳やパラテニス、車いすバスケットなど様々な競技観戦を楽しみ、応援されているそうです。



高桑選手が注目する英国代表パラ陸上選手

高桑選手が注目する英国代表パラ陸上選手についても伺いました。

ハンナ・コックロフト(Hannah Cockroft) T33/34 (車いす) 100m。ロンドン2012大会金メダリスト、2017世界パラ陸上競技選手権大会ロンドンでは出場種目全てにおいて金メダル獲得しています。

ジョニー・ピーコック(Jonnie Peacock) T44 (下肢切断者) 100m。ロンドン2012大会、リオ2016大会にて金メダルを獲得しています。

高桑早生選手が海外で見る、日常に根づくパラスポーツの光景とは https://gogb2020.jp/columns/interview_takakuwasaki/

高桑早生(たかくわ・さき) / NTT東日本所属。1992年5月26日埼玉県生まれ。小学6年の冬に骨肉腫を発症。中学1年の6月に左足ヒザ下を切断。東京成徳大深谷高校陸上部、卒業後、慶應義塾大学総合政策学部入学、体育会競走部入部。数々の輝かしい戦績を持つ。

ロンドン2012大会: 100メートル、200メートルともに7位入賞 リオ2016大会: 女子走り幅跳び 5位、女子200m7位、女子100m 8位

インチョン2014アジアパラ競技大会(韓国): 女子100m 3位 2015 カタール IPC陸上競技世界選手権: 女子走り幅跳び 3位

2017 世界パラ陸上競技選手権大会(英国): 女子走り幅跳び(T44) 5位

パラ柔道の見どころは、格闘技性の高さ

続いて、この夏、英国代表選手が慶應義塾大学日吉キャンパスでトレーニングキャンプを行ったパラ柔道の見どころについて、日本視覚障害者柔道連盟事務局の松下邦彦総務部長にお話を伺いました。

「パラ柔道の特徴の一つは組み手争いがなく、常に組んだ状態で競技を行うことによる格闘技性の高さです。格闘技が好きな方たちにも大変興味深いスポーツだと思います。□英国チームの印象は、先月行われたIBSA柔道ヨーロッパ選手権の結果をみると、男子重量級が強いイメージがあります。直近の世界ランキングでも、男子の重量級は上位にランキングされています。」

また東京2020大会への期待も伺いました。「柔道はオリンピック・パラリンピックの共通のキーワードとして“共生”を掲げており、バリアフリーが一層促進される機会となり得たら良いと考えます。」

パラ柔道は今年8月21日から23日の間、柔道の英国代表チーム(Team GBおよびParalympicsGB)が日吉キャンパスにてトレーニングキャンプを実施しました。当日の選手の様子など、ぜひ「慶應義塾大学WEBサイト」よりご覧ください。

柔道の英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2019/9/5/27-62861/>

注目するパラ柔道英国選手

上記トレーニングキャンプでも来日された、注目したい英国代表パラ柔道選手をご紹介します。

クリス・スケリー(Christopher Skelley) 1993年生まれ26歳。カテゴリーは100kg以下。リオ2016大会では決勝にも進出し、東京2020大会への選出も期待されています。

取材を終えて／注目したいパラリンピック競技とその魅力、英国代表パラ選手についてご紹介しました。英国において、パラリンピック観戦はオリンピックと同様の熱気と観戦ムードに包まれています。ぜひ私たちも、2020年英国代表チーム事前キャンプに向けて、英国同様に、パラリンピックを盛り上げていきませんか。

2019/12/20 英国代表チームを応援しよう

高桑早生選手が海外で見る、日常に根付くパラスポーツの光景とは



東京2020パラリンピック競技大会まで残り1年を過ぎ、パラスポーツへの注目が一層集まっています。今回、日本代表として長年活躍するパラアスリート、高桑早生選手(陸上・慶應義塾大学卒)から、世界有数のパラスポーツ王国・英国などで感じた、パラスポーツを取り巻く環境や意識の違い、その変容の歴史、東京2020大会への期待について、お話を伺いました。

長年見てきたパラリンピックから感じる、環境変化

「パラリンピックは北京2008大会の頃から、大きく変わり始めています。そして、その発祥の地という自負がある英国は、ロンドン2012大会で大成功を収めました。日本でも、もっともっとパラスポーツを楽しんで欲しいです。」

こう話す高桑選手はロンドン2012大会、リオ2016大会に出場。初出場のロンドン2012大会では、T44クラスで100m7位、200m7位入賞を果たしました。「ビギナーズラックです」と謙遜されていますが、続くリオ2016大会でも、100m8位、200m7位と同水準を維持しつつ、走り幅跳びでも5位と好成績を記録。

「私は、北京2008大会の頃から、パラ陸上に取り組み始めました。その頃は、ちょうどパラスポーツの過渡期と言えるタイミングで、取り巻く状況が徐々に変わってきていました。それ以前はパラスポーツはリハビリの一環と考えられていた時代もあり、遠征も自費で参加するなど、先輩方は本当に苦労されたそうです。2014年韓国のインチョンアジア大会からは、それまでパラアスリートが使えなかったマルチサポートハウスが使えるようになりました。マルチサポートハウスとは、選手村外に設置された施設で、食事やコンディション作りなど選手団へのさまざまなサポートを行なうためのものです。また、少しずつですが試合もテレビ中継されるようになり、報道も増え始めました。変容していく過程を、当事者として実感してきました。今や、私たちも『トップアスリート』と呼んでもらえるようになり、パラアスリート採用を行う企業もでてきています」

英国パラスポーツを支える、“人のバリアフリー”

「英国はすごいです。パラスポーツ発祥の地の自覚からか、本当にパラスポーツが盛んですし、ボランティアの皆さんなど周りの盛り上げも素晴らしいです。英国にいと、自分たちがパラアスリートであることを誇りに思えます」興奮気味にこう話す高桑さん。ただ、実際に見たロンドンの街は、石畳が多く、決してパラアスリートにとって受け入れ体制が万全な訳ではなかったそうです。主要な移動手段は地下鉄、複雑な構造の建物でブラインド(視覚障害)の選手が苦労したケースも。それでも、英国のみならず欧米では、街を歩いている人々が、誰かしら声をかけてくれて、助けてくれる雰囲気があるとのこと。

「今年出場したワールドパラアスレティクス グランプリ パリ大会の時に驚いたのは、赤ちゃん連れの若いお母さんが、私に対して『あなた、ちょっとこれ持っていてくださる?』って、普通に会話するような感覚で、サポートを求めてくるのです。不自由がある側から、当たり前のように、手を貸して欲しい、と。日本でも最近は手を貸せる側からの声掛けは増えてきましたが、“人のバリアフリー”とも言えるようなこのような空気感はまだまだないですね。」

また、2017年にロンドンで開催された、世界パラ陸上競技選手権大会では、さまざまな工夫が施されました。

「通常なら、健常者の大会の後にパラの大会が開催されますが、この大会では、初めてパラの大会が先に開催され、その後、健常者の大会という順番で行われました。これは、実に画期的なことでした。パラの大会で大いに沸き返って、そのままの勢いでバトンタッチする。もちろん大成功でした」

東京2020大会を通じて日本を知ってもらいたい

高桑選手は英国とも縁があり、母校である慶應義塾大学日吉キャンパスが英国代表チーム事前キャンプ施設の一つとなったことも、喜んでいきます。また自身も、現在慶應義塾大学日吉キャンパスのグラウンドや施設を使って、毎日練習にはげんでいます。

高桑選手には、英国に限らず海外出身のアスリートの友人が大勢いるそうです。彼らが東京2020大会に期待することについて、高桑選手はこう語りました。

「彼らにとって日本はまだ未知の国で、東京2020大会のパラアスリートの受け入れ体制がどうなっているかということよりも、もっと日本そのものについて知りたいと考えているようです。私で教えられることであれば、何でもお手伝いしていきたいと考えています。今年開催するラグビーワールドカップでも海外からアスリートが多く訪れるので、良いお手本になるかもしれませんね」

いかがでしたでしょうか。高桑選手が英国で見てきた、日常に根付くパラスポーツ、そしてパラアスリートが自信と誇りを胸に競技に臨める“人のバリアフリー”。日本でも、メディアによる番組や報道、各種イベントを通じて、パラスポーツが盛り上がりを見せています。東京2020大会に向けて、私たち1人1人の意識や行動を見直してみることが、国内外のパラアスリートを温かく迎えることにつながり、彼らにとっての心の支えとなるのかもしれない。

2019/09/02 英国代表チームを応援しよう

英国代表チーム(Team GB)器械体操選手にインタビュー

7月初旬、英国代表チーム(Team GB)器械体操チームが慶應義塾大学日吉キャンパスの蝮谷体育館でトレーニングキャンプを行いました。いよいよ1年後となる東京2020オリンピックでは、日吉キャンパスが横浜市・川崎市とともに英国代表チームの事前キャンプをホストとして受け入れることが決まっていますが、今回はそのテストキャンプの位置づけです。

7月10日には、英国メディアを迎えてオープン・メディア・デーが開催されました。ブリン・ビーヴァン選手、コートニー・タロック選手、ジェームズ・ホール選手に、慶應義塾大学でのトレーニングキャンプについての感想や、来年に向けての抱負を伺いました。

オリンピック・パラリンピックと慶應義塾 <https://www.keio.ac.jp/ja/olympics/>

ブリン・ビーヴァン選手

「スポーツでは、こんな機会は一度しか得られません。世界レベルの活躍ができるのは若い頃だけです。私は2歳から体操を始めて今22歳なので、もう20年になりますが、とりわけ器械体操競技の選手としての寿命はあまり長くはなく、多くが20代後半から30代の初めまでといったところです。ですから、この短い間にできる限りのことをしなければならいわけです。これ以上ないくらい努力し、最もハードなトレーニングを重ね、試合においても、自分のキャリアにおいても、確実に、最大限に自分自身を引き出せるようにね」



コートニー・タロック選手

「蝮谷体育館に初めて来た日、慶應の器械体操部員が一行に並んで待っていました。ひとりひとりが握手をして温かく迎えてくれ、私たちが何でも使えるように準備を整えてくれていました。私たちは今、ここでの時間を楽しんでいます。体育館まで歩いてくる途中、このキャンパスには本当にたくさんの方がいて、なにかしらしているのが見えて、とてもいいなと思いました。本当に素敵なキャンパスで、私たちも慶應にいられて嬉しく思います」

ジェームズ・ホール選手

「ちょっと歩いているだけで、本当にたくさんの方がいろんなスポーツをやっているのが見えますよね。英国とは全く違う光景なんです。もちろん英国にもそういう大学が全くないわけではありませんが、あったとしても、ごくわずかです。こんなにたくさんの方がスポーツに親しんでいるのは、いいものだなと思います。こういう環境にいと、なんだか一層ワクワクしますね」



TOKYO2020公式 Twitter

<https://twitter.com/Tokyo2020/status/1152430090812186627>

2020/01/10 英国代表チームを応援しよう

英国選手団長ペニー・ブリスコーさん、 パフォーマンス責任者トム・ポールソン博士が、 東京2020大会に向けた抱負と期待を語りました！

東京2020大会の英国パラリンピック代表チーム事前キャンプを受け入れる川崎市は2019年12月5日(木)、英国パラリンピック委員会のスポーツ局長で英国選手団長のペニー・ブリスコーさんと、パフォーマンス責任者のトム・ポールソン博士による講演会「ParalympicsGB: Towards TOKYO(英国パラリンピック代表チーム 東京大会に向けて)」を開催しました。

冒頭、川崎市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室の原隆室長が挨拶に立ち「英国は、これまでパラリンピック夏季大会で1,790個のメダルを獲得している強豪国。今回も選手団長のペニー・ブリスコーさんが、強い代表チームを率いて東京2020大会に臨んでくれるはずです。代表チームのサポートをするため、川崎市が行ったボランティア募集には、300名の定員に対して5倍以上の応募がありました。これは英国チームを応援しようという、多くの市民の熱意の表れだと感じています。川崎市としても『GO GB 2020』を合言葉に、英国チームの事前キャンプ、そして東京2020大会での活躍を応援していきます」と語りました。



講演会はブリスコーさんが英国パラリンピックチームのビジョン(目標)「スポーツを通して、障害のある人々にとって良い世界をインスパイア(啓発)する」、ミッション(使命)「パラリンピックの競技において、フィールド内でも外でも、英国が世界をリードする」、バリュー(価値観)「Excellence, Honesty and Trust(卓越、誠実、信頼)」を紹介することから始まりました。

そのうえで「英国パラリンピック委員会(BPA)は小さな団体ですが、『大きな野心』と『強い気持ち』を持って競技に挑み、これまで1,790個のメダルを積み重ねてきました。私たちはパラスポーツが障害のある人々の生活の質を向上させるという信念に基づき、世界有数の『パラリンピック強国・英国』を作り上げてきたのです」と力説。



「東京大会でも260名を超える選手たちが最高のパフォーマンスを発揮することを約束します」と、メダル獲得数(147個)で世界第2位となったリオ大会の結果を上回るような活躍を見せると力強く宣言しました。

ブリスコーさんは、1948年にイギリスのストーク・マンデビルから始まったパラリンピックの歴史を写真で紹介。また初めてパラリンピックがオリンピックと同年に開催されたのが1964年の東京大会であることを説明し、「東京は『オリンピック・パラリンピック』を2度開催する世界で最初の都市となります。世界中160カ国以上の国と地域から、4,400人を超えるアスリートが集まるスポーツの祭典が、(講演会開催日から)あと264日後に始まります」と東京大会の期待感を盛り上げました。

ポールソン博士は、パラリンピックで2度の金メダルを獲得した陸上競技のジョニー・ピーコック選手、世界大会で3度のメダリストとなっているアーチェリーのジェス・ストレットン選手、リオ大会の銀メダリスト・重量挙げのアリ・ジェワッド選手などを英国チームの注目選手として紹介。

「それぞれのアスリートが異なる障害を持ちながら練習に取り組んでおり、周囲からの支援を必要としています。川崎でトレーニングを行うすべてのアスリートは、市民のみなさんのホスピタリティーとサポートを楽しみにしています」とし、東京大会を目指す選手たちが、SNS上などでポジティブなコメントを発表していると笑顔で語りました。



また講演の最後にはブリスコーさんが、2012年のロンドン大会後に起こった社会的な変化について説明しました。

「ホスト国となったロンドン2012大会で、私たちは2つの素晴らしい経験をえました。一つは多くの競技で良い成績を収めたこと、もう一つは競技に取り組むアスリートの姿勢を通じて、障害者に対する社会の見方を変えたということです。開催後の調査では、英国の8割を超える成人が『英国パラリンピックチームの活躍が、社会全体にポジティブなインパクトを与えた』と回答しています。パラリンピックは、障害のある人でも社会や子供達のヒーロー・ヒロインになれることを証明できる大会です。人々の障害者に対する意識を変えるには時間がかかりますが、私たちは“*Yes, we can!*”と唱え続けることが、社会の前進につながると信じています」と参加者に熱く語りかけ、東京2020大会のレガシーとして障害者を取り巻く環境や社会の意識に、より良い変化が起こることを期待すると述べていました。



〈講師紹介〉

ペニー・ブリスコーさん(写真右)

東京2020大会 英国パラリンピック代表チーム選手団長。アトランタ1996大会、シドニー2000大会では英国カヌーチームのシニアナショナルコーチとして活躍。2002年から英国パラリンピック委員会のスポーツ局長を務めている。ソチ2014冬季大会からパラリンピクスGB(英国パラリンピック代表チーム)の選手団長に就任し、以降リオ2016大会、ピョンチャン2018冬季大会でも代表選手団を率いた。2017年にはスポーツ分野での功績が認められ、新年の褒章でOBE(大英帝国勲章)を受章した。

トム・ポールソン博士

リオ2016大会では、学術的な研究プロジェクトを監督し、2019年より英国パラリンピック委員会のパフォーマンス責任者に就任。東京2020大会における、あらゆるコアパフォーマンスサービスを担当している。

2019/06/28 ジュニア記者レポート

イギリス選手がやってきた！ ～「2018ジャパンパラ水泳競技大会」取材しました

横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2018年10月に開催された「2018ジャパンパラ水泳競技大会」についてです。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



ジュニア記者取材レポート：イギリス選手がやってきた！～「2018ジャパンパラ水泳競技大会」

2018ジャパンパラ水泳競技大会が北山田の横浜国際プールで行われ、ジュニア記者12名が応援に行きました。会場でもらったプログラムをみながら、どんな選手が出ているのかをチェック。イギリス選手がでるとみんなでイギリス国旗を掲げて「GO GB」と呼び応援、それ以外のときには「ニッポン、チャチャチャ」と楽しく応援し、盛り上がりました。イギリス選手にもきっと記者たちの応援が聞こえたと思います。

それぞれの記者たちの感想です。

僕は、イギリスの選手が出場するたびに新記録を達成していて驚きました。これからの2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、もっとイギリスとの絆を深めていきたいと思いました。

久保 心之介

ジャパンパラ競技大会は、手の不自由な方や足の不自由な方が活躍していました。選手みんなが頑張っている大会でした。最下位でも一生懸命泳いでいる姿や、障がいがあったとしても頑張る姿を見て、すごいなと思いました。

これからも選手に頑張ってもらいたいです。

山田 咲幸

今回のジャパンパラ水泳競技大会で、一番心にのこったことは、片手だけで泳いでいた選手のことです。片手だけでも関わらず100メートルをみごとに泳ぎきり、スピードも私と同じくらいでおどろきました。この大会を見ることができよかったと思いました。

四方 あかり

私は、今回初めて、障害者の方が参加されているスポーツを見に行きました。なかなか「生」では見れない貴重な体験だと思ったので、始まる前からワクワクしていました。

出場国は、「アメリカ」「カナダ」「メキシコ」「コロンビア」「イギリス」「スペイン」「オーストラリア」「ニュージーランド」「日本」の9か国で、どの国のどの選手も泳ぐのがとても速くて、びっくりしました。さらに、今日の大会で大会新記録や日本新記録という素晴らしい記録を出された方も多くいらっちゃって、「わあ、すごいなあ！」と感激しました。選手達は泳ぎが速いだけでなく、泳ぎのフォームもきれいで、自分も見習いたいなと思いました。

私が特に、注目した団体は、イギリスです。(もちろん日本チームも応援しています!)イギリスチームは、日本の環境になれるためのオリンピック事前キャンプをしますが、その場所として都筑区が選ばれました。

日本の皆さんが、日本チーム同様に温かい目でイギリスチームに声援「GO GB(GREAT BRITAIN=英国の略)」と送ってあげたらイギリスの方たちも、もっと日本が大好きになると思うので、みんなで応援したいと思います。

田中 希和

午後に行われた決勝の試合を見に行きました。まず最初に驚いたのが、客席にかなりの人がいたことです。片側は企業の方々が出て、もう片側には一般の方が入っていましたが、年配の方から小さな子どもまでさまざまな方が見に来ていました。

この写真は、女子100メートル自由形のS6の表彰式の写真です。サマー・ニュートン メイジーさんが表彰台にのぼりました。小柄であるにもかかわらずパワフルな泳ぎで思わず応援してしまうような泳ぎでした。



次は同じ種目のS10の表彰式です。マルーリー ザラさんは私の1つ歳が上で、まだ高校生なのに大会に出ていると知りとても驚きました。男子の50メートルバタフライでは小学生や中学生も出場しており、また30-40代の方も出場していて、年齢層の厚さを感じました。



これは男子100メートル自由形のS12の表彰式です。クレッグ・ステファンさんが大会新記録で優勝を飾っていました。視覚障害でありながらも一般の大会さながらの泳ぎで圧倒されました。同じ種目の1組目では、背泳ぎで出ている選手もいて、自由形=クロールという概念にとらわれず、自由に泳いでるのを見て、こういった考え方もあるのだなと感じました。

日本での開催ということで観客はほとんどが日本人でした。しかし、日本人、外国人、と区別せずに皆が応援していて、一体となって応援できるのはパラスポーツの良いところなのではないかと思いました。

また、今回の結果を見ると、外国人の方も多く優勝していましたが、日本人の選手もかなり表彰台にのぼっているなと感じました。パラリンピックに向けて、日本人がメダルを狙える競技なのではないかと思いました。世界にはもっと早い選手がいて、世界の壁は厚いけれど、2020年に向けて、日本人の選手、さらにはさまざまな国の選手にも目を向けて応援をしていきたいです。

中島 万賀

取材:久保 心之介、桑野 煌己、高橋 那菜子、山田 咲幸、山田 真白、四方 あかり、松岡 莉香、森 結里、長谷川 絢美、田中 希和、中島 万賀

〈つづきジュニア編集局って?〉

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019/10/01 ジュニア記者レポート

英国代表チームが横浜国際プールにやってきた！ GO GB!! がんばれ、英国！

横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2019年7月に実施された英国水泳代表チームのプレ事前キャンプについてです。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



2019年7月12日～28日に韓国光州で開催された世界水泳2019に出場する英国選手が横浜国際プールで練習するところ、そして最終日に地元の人たちと交流する送迎レセプションを、取材させていただきました。

7月13日 英国プレ事前キャンプ:練習のようす

私たちジュニア記者は、プールサイドで練習を見させていただきました。他にも中学校の水泳部など、地元の若者たちが集まって熱心に見学していました。

施設の方のお話によると、プールの温度が27度と低めにしたり、水も深くしたりして、競技用に合わせてプールのコンディションを調整します。今回、選手は、毎日午前中と午後2時間、9日間続けての練習をします。

観客席から、練習のようすをずっと見せてもらいました。選手たちは 立て続けに1500Mを泳いだり、片手を上げたままクロールを泳いだり、また4人で息を揃えてバタ足をしたりするなどの練習をしていました。基本的にはゆっくりとしたペースで泳いでいましたが、タイムを計る時には、一転してその倍くらいのペースで泳いでいるように見えました。ゆっくり泳いでいるときには、見ている私たちに手を振ってくれたりして、とてもうれしかったです。

練習のあと、インタビューに答えてくれました。記者たちは、がんばって調べてきた英語で質問しました。答えは通訳の方に教えてもらいましたが、選手に「英語上手だね」とほめられました。



選手にインタビュー！

Q.国際プールのプールはどうですか？

A.とても優秀な施設のスタッフがいてくれて、コンディションをよくしてくれるので、とても泳ぎやすく、すばらしいです。

Q.一日どのくらい泳ぐのですか？

A.練習のときには、だいたい1日12km～14kmを泳ぎます。

Q.水泳をはじめたきっかけは何ですか？

A. 12歳の時、憧れの水泳選手がいたことから、水泳をはじめたいと思いました。

Q.水泳のどういうところが面白いですか？

A.水泳をするようになって、大会などで外国に行くことが多くなりました。外国旅行がたくさんできる楽しみもあります。

Q.スランプなどのとき、どのように気持ちを切り替えますか？

A.上手く泳げなかったとき、どうして出来なかったかを考えて、一からやり直しています。

Q.選手の皆さんは泳ぐ前にどんなものを食べていますか？

A. 選手の間にはそれぞれ食べるものが違います。私はプロテインと野菜をよく食べます。

取材:菊池 直希、古林 沙羅、森 結里、清水 一葉、清水 麻緒、石嶋 愛華、足立 理子、長谷川 絢美、田中 希和、鈴木 翔大



7月16日 歓送レセプション

レセプションでは、始めに国際プールで練習しているコーラスグループが、「ピリブ」という曲を歌って選手たちをむかえました。選手たちが、「練習したことを発揮して成果を出せることを信じている」という理由でこの曲を選んだそうです。

選手たちが全員イスにすわると、北山田小学校が選手ひとり一人に宛てて書いた、メッセージカードを手渡し、プレゼントしました。それは、四季の森小学校のみなさんが、横浜の花を押し花にしてカードにしたものに、北山田小学校のみなさんがメッセージを書いたものです。

次に、東山田小学校から「世界の約束」という曲をリコーダーで演奏しました。スポーツを通して世界の平和を、という願いを込めてこの曲を選んだそうです。最後に英国選手たちからお礼の言葉と、額縁にはいったメッセージボードをいただき、全員で集合写真を撮りました。

選手たちが、退場するとき、こどもたちみんなで花道のトンネルを作りました。選手達は、みんなにタッチしてくれました！水泳選手の人たちは、みんな手が大きく、私たちの顔の一つ分はありました。背も高くて、すごいなと思いました。

取材：月岡 結菜、古林 沙羅、草郷 緑彩、長谷川 絢美、田中 ころこ、野口 明日美、廣田 心乃



ジュニア記者の感想

すごい距離を泳いでいるのに、疲れを見せない姿は本当にすごいと思いました。これがアスリートといわれる人たちなんだと感動しました。ミニレセプションでは、小学生から手作りのプレゼントをもらうとうれしそうにしていました。世界水泳では練習の成果を発揮して頑張ってください。

長谷川 絢美
(小学6年)

レセプションでは、選手の入場を、歌で出迎えました。選手はみんな、背が高くて、用意したパイプイスが小さく見えました。身長が高いとゴールするのも速くタッチできるのかなと思いました。英国選手も日本の選手と同じように応援したいです。2020年に向けて練習をがんばってほしいです。

月岡 結菜
(小学5年)

選手たちが、レセプションのギリギリまで練習して疲れていると思うのに、子どもの作ったトンネルをくぐる時、優しい笑顔を見せてくれたのが、印象的でした。ぜひ、世界水泳でも、頑張ってください。

野口 明日美
(小学5年)

英国選手のチームワークがよかったです。一番チームワークが良いと思ったのは、飛び込みです。もし飛び込みがミスをしてしまったら練習のサポートをしている人が怪我する、そんな構図でした。それを見て私は「相手を信頼しているな」と思いました。私も練習することがあったら、協力していくことが大切だと改めて感じました。

足立 あやこ
(小学6年)

レセプションの終わりに、英国選手達が通りがかったので、思い切って「GO GB!」と後ろから叫びました。そしたら選手達が、「Oh, Thank You!」と言ってくれたので、うれしかったです。

草郷 緑彩
(小学6年)

英国選手と交流出来る場に参加できたことは本当に良い経験だったと思います。言葉を超えて会話するという楽しさや英国に対する興味を持てたので、今後は、世界水泳や東京2020大会などを通して、もっと英国について知る機会を作りたいです。

田中 希和
(小学6年)

今回、英国チームの取材に行くととても感激しました。練習を見学していると、とても長い時間泳いでいるのに、自分たちに手を振ってくれたり、質問にやさしく答えてくれたり。また、小さな子には選手のカードを配ってくれて、ハイタッチをしてくれました。このように優しくしてくれる英国チームの練習を「GO GB!」の旗を振って応援できたのがとても嬉しかったです。来年の東京オリンピック・パラリンピックでは、英国チームも応援して、チームに貢献できるようにしたいと思いました。

菊池 直希
(小学6年)

2021/03/24 ジュニア記者レポート

すべての人をつつみこめる社会へ ～英国パラリンピアンからのメッセージ 「共生社会について考える」オンラインセミナーを視聴して

2019年3月19日、ブリティッシュ・カウンシル協力のもと、英国のパラリンピアン、スージー・ロジャースさんに生出演いただき、共生社会について考えるオンラインセミナーが実現しました。セミナーにご参加いただいたジュニア記者さんに、今回のセミナーについてレポートをしていただきましたので、ぜひご覧ください。



英国のパラリンピック金メダリストのスージー・ロジャースさんの「共生社会について考える」をテーマにしたオンラインセミナーに参加しました。1時間ほどの短い間でしたが、幅広い分野のお話を聞くことができ、貴重な体験でした。

スージー・ロジャースさんは、バタフライと自由型を得意とする水泳選手でした。ロンドン五輪では3部門で銅メダルを獲得し、次のリオ五輪では金メダルを獲得し、銅メダルも2つ獲得するという華々しい功績をもつ人です。引退されてからは、「インクルージョン」についてグローバルに講演を行い、ブリティッシュ・カウンシルの障がい者諮問委員会のメンバーとしてや、障がいのある人をサポートする活動を行なっているそう。水泳選手として海洋生物や地球の生態系を守る活動も行なっているとのことでした。

「インクルージョン」とは、障がいのあるすべての人が教育、雇用、余暇、社会などあらゆる分野に参加することを確保し、そのために必要なサポートや体制を提供するという理念で、障がいのあるひと、ないひとと共生し、つつみ込んでいくという考え方です。ロジャースさんは、セミナーの中でこれをよく口に出していました。障がいのある人だけを特別扱いするのではなく、怪我をしている人や体調の悪い人、高齢の方や小さい子ども、妊婦さんも、そして私たちのためにもできるだけバリアを減らしていくべきだと思いました。

また、物や施設のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーも大切だと言っていました。心のバリアフリーを進めていくためには、多くの障がい者の人を知る機会が大切です。すると、パラリンピックで見ることができる、カッコいい選手たちは、私たちが障がい者のことを知る最初のきっかけになりうるのではないのでしょうか。いろんな人が集まって協力するパラリンピックを理想の形(ロールモデル)とし、日常生活に役立てて欲しいと、ロジャースさんはメッセージをくれました。

私は2020東京パラリンピックのボランティア資格が残念ながらありませんが、機会があったらパラリンピックのボランティアに参加したいと強く思いました。

橋本 みなみ

ジュニア記者から質問することができました。

Q.パラリンピック選手になったきっかけはなんですか？

A.私はパラリンピックの大会をよく見ていました。見る中で、すばらしいチャンスがあるのだということを感じていました。そして、ロンドンで開かれることになって、自分の国でやるなら、大会に出たいと思いました。そのために大会にでるために、とにかく一生懸命練習しました。

Q.金メダルを取るために工夫した事はなんですか？

また、金メダルを取るために苦労した事を教えてください。

A.怪我や病気が多く、それを克服していくことがたいへんでした。トレーニングをはげしくすると順調に練習していたと思ったら、急に病気になったりして、一貫して練習できないということは苦しかったです。大会と大会の間の4年間に実績を残すためにできることはすべてやったと言えると思います。そんな中、心の支えだったのは家族です。家族はどんなときも応援してくれました。自分ひとりではない、チームで戦っているという気持ちがいっつもありました。そして、コーチやスタッフのサポートがあったからこそです。

広瀬 文香

今まで僕は、障がいのある方に出会ったとき、どう対応すればいいかをむずかしく考えすぎていたと気がつきました。どうやって対応すればいいかを考え過ぎていたために、距離を置いてしまっていた。

今回、スージー・ロジャースさんが話していたことでいちばん印象に残った言葉があります。「障がい者の障がいに目を向けるのではなく、その人自身に目を向けて接してほしい」という言葉です。このことを聞いて、これからはもっと障がいのある者の方々に、気軽に接していこうと思いました。差別や偏見のない社会になっていけるように、僕もできることを努力したいと思いました。

長谷川 路彰

2021/08/02 ジュニア記者レポート

ジュニア記者による2021年英国事前キャンプに関するインタビュー

横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、ジュニア記者の皆さんが、キャンプディレクターであるティム・ジョーンズさんと、英国の事前キャンプ地となっている国際プールの吉田館長にお話を伺いました。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



国際プールで見つけたオリンピック精神

「GO GB」は、オリンピック・パラリンピックにおいて、英国の事前キャンプ地である横浜市、川崎市、慶應義塾大学が掲げた合言葉です。「GO」は「頑張れ」、「GB」はイギリス本土がある島の名前「グレートブリテン」を意味しており、イギリス選手団を応援するメッセージとなっています。

今日、私たちは都筑区にある横浜国際プールに赴きました。先程も述べましたが、横浜市は英国のホストタウンを担っていて、横浜国際プールはオリンピックの競泳、飛込の事前キャンプ地となっています。

取材の前半は事前キャンプのディレクターとして来日していたティムさんに、リモートでお話を伺いました。ティムさんの主な仕事は ①若い人材を発掘し、②選手他たちにベストなスケジュールを立てることだと言います。選手を含め、英国チームは慶應義塾大学の日吉キャンパスに宿泊しているそうです。ここで一人の記者が選手の食事の内容について質問をしたのですが、これに対しティムさんは、日本食とイギリスの食事をミックスしていると答えたので、私は驚きました。少しでも慣れた食事を摂った方が選手のパフォーマンスに良い影響を与えるのではないかと思っていたからです。しかし、お話を聞いて、オリンピックの意義として「スポーツを通じた人間育成」のほかに「世界平和」があることを思い出しました。もちろん本番で良い結果を出すということも必要ですが、それと同じくらい多文化を理解することも平和への一歩として大事だと気づかされました。ちなみにティムさんの好きな日本食はギョーザでした。

後半は横浜国際プールの館長である吉田さんのお話を聞きました。想像よりも明るく親しみやすい方でした。キャンプ地としての準備は約5年前から始まっていて、横浜市や都筑区の職員や、旅行会社の方と協力してサポートしています。ただでさえ選手たちの要望に合った環境づくりが求められるのですが、今年はCOVID-19対策のため、さらに多くの配慮が必要となったそうで、大変だと感じました。しかし、そのような私の感想とは裏腹に、横浜国際プールがキャンプ地に選ばれたことについて吉田館長は「非常に光栄です！「国際プールはメダルが取れるプール」となれば良いですね」と笑顔で答えていました。このような状況での開催だからこそ、その中心にいる人々には吉田館長のようなポジティブさが大切だと感じました。

山本 承太郎

横浜国際プール取材しました！

横浜国際プールは英国代表チームの事前キャンプ地になっています。私たちは、オリンピック期間中の7月28日、横浜国際プールの館長の吉田文雄さんと英国代表競泳のコーチをしているティムコーチにお話を伺いました。

横浜国際プールは、国内最大級のプールです。プールは床の高さを調節することができます。一番深いと3.5メートルの深さにすることができます。



約4,000席の観客席があり、長さ50メートルのメインプールは、冬は床が設置され、体育館として使われます。変更をするときは、ひび割れがないかなど、念入りなチェックをしているそうです。メインプールのほかに、5メートルの飛び込みダイビングプールとサブプールがあり、サブプールは50メートルのプールを25メートル2つに分けることができます。

横浜国際プールでは、コロナ対策に気を使っています。体調管理、検温、消毒、換気、三密対策をしています。館長の吉田さんは、国際プールで練習している英国選手がメダルをとると、自分のことのようにうれしくなる、と話してくれました。

ティムコーチは、かつて選手をしていて、選手時代には、一日に6時間、6キロほど泳いでいたそうです。水泳を通して世界中を旅しているそうです。今回コロナの影響で、英国から日本に来るのが大変だったそうです。日本の食べ物で好きなものは餃子だそうです。

今回取材をして、プールの床が変わることを知らなかったのが、驚きました。

英国選手のお話は聞けませんでした。ディレクターのお話を聞いて、選手の日頃の練習量はすごいと思いました。オリンピックで英国選手が活躍したら嬉しいです。

折下 陽琉

「支える」は温かくする

今回は、2人の心強いオリンピック競技のサポーターの方々に取材しました。1人目の方は、私たちのまち(横浜)に事前キャンプで訪れた英国選手のキャンプディレクターであるティム・ジョーンズさんです。

英国事前キャンプディレクターとは、大物選手のたまごのような若い選手を発掘することをする方です。キャンプディレクターの役割はそれだけではありません。選手の皆さんが競技でベストを出せるようにサポートすることが1番大事な役割です。ティム・ジョーンズさんは、元英国代表の水泳選手であり、元オリンピックのコーチをやっていらっしゃいました。ティム・ジョーンズさんは、選手とコーチ両方の経験者だからこそ選手のベストを引き出せるのだなと思いました。

イギリス代表の水泳選手の皆さんは、1日に多くて6時間もの練習をしているそうです。そのため、ティム・ジョーンズさん含め選手をサポートする皆さんは、選手がベストを出せるようにするためにいろいろな工夫をしていました。食事のメニューを考えたり、日本人サポーターの人と選手の皆さんの居場所を完全に分けて、オンラインでのやりとりを行うことでコロナの感染者を抑えたり。とても大変だなと思いました。

最後にティム・ジョーンズさんは、「自分が強いと信じてレースに集中するのが大切だ」と教えてくださいました。私は、人生のレースも前向きに進んでいくのが大事なのかなと考えました。

2人目の方は、英国事前キャンプ施設の一つである横浜国際プールの館長の吉田さんです。



吉田さんも、ティム・ジョーンズさんと同じ英国代表選手のサポーターです。国際プールを通して選手のみなさんにとっての最高のコンディションを提供していたのです。

例えば、国際プールでは5年前から準備・打ち合わせを、また2年前には事前キャンプの練習も行ったそうです。コロナ対策の面でもサーキュレーターなどの最新技術を用いて安心安全の環境が整えられていました。そのため、英国選手からも国際プールは事前キャンプ施設として好評でした。吉田さん自身も、英国選手の事前キャンプについて「とても光栄です」と話していました。

そして、この横浜国際プールの施設には秘密がいっぱいありました。国際プールには3つのプールがあります。最大3.5メートルまでに中の水を入れたまま深さが変えられるメインプール・プール内の壁が動き25メートルプール2つにも50メートルプール1つにもなるサブプール・深さ5メートルもあるダイビングプール。どれも使う用途に合わせて細かく設備の設定を変えられるのです。また、5月から9月の間はプールとして使い、10月から4月の間は、プールの底を平らになるまで上に引き上げ、床を取り付け体育館として使う。夏は水泳・シンクロ・とびこみの教室、冬は、サッカー・ダンス・テニスの教室なども行われています。つまり、一年中多くの人に利用されているということです。

最後に吉田さんは、私たちに特別なニュースを教えてくださいました。オリンピック終了後には、国際プールのロビーに英国選手のサインボードと今回の事前キャンプでの選手の様子を提示するそうです。是非また行きたいと思いました。

東京2020オリンピック・パラリンピック。新型コロナウイルスにより大会が延期になったり、無観客で行ったりと今までにない新しいかたちでの開催となりました。パラリンピックはこれから開催されます。

また世の中では、開催に対する反対の声や政府の問題点などたくさんの方がネット上でもあげられました。たくさんの方のトラブルに見舞われましたが、私は今回2人の方にお話を伺ったことで「支える」ことは人の心を、そして世の中を温かくするのだなということを感じました。

山本 未来

2016/11/29 慶應義塾大学

清家篤塾長が英国オリンピック委員会を訪問

11月18日、清家篤塾長がロンドン市内の英国オリンピック委員会(British Olympic Association, 以下BOA)を訪問し、Hugh Robertson会長とCEOのBill Sweeney氏と懇談しました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、英国チームが慶應義塾大学日吉キャンパスの体育施設において大会前の事前トレーニングキャンプを実施することが決定しています。Robertson会長は、「オリンピックは東京が世界の中心になって注目を集める貴重な機会。慶應義塾とパートナーになることをBOAとしてもとても光栄かつ名誉な事と思っている」とし、清家塾長は「英国チームの受け入れが、スポーツ面での交流やキャンパスのグローバル化に繋がることを期待している。塾生たちがオリンピック本来の趣旨や意義を理解し、さらに深く英国を理解する機会になればよい」と、BOAとの連携に期待を寄せました。

なお、清家塾長によるBOA訪問と並行して、11月16日～18日、本学の職員による視察チームが、King's College London、University of Birmingham、Loughborough Universityの3校を訪問し、2012年のロンドンオリンピックにおける各大学の取り組みについてヒアリングを行いました。各大学からの助言を受け、今後の義塾の取り組みに活用していく予定です。

〈参考〉

東京五輪における英国事前キャンプ地 覚書締結式 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2015/osa3qr000001dc4w.html>

University of BirminghamのWebサイトに掲載された視察チーム訪問に関する記事

<http://www.birmingham.ac.uk/news/latest/2016/11/Olympic-hosts-visit-Birmingham-for-advice-on-hosting-elite-athletes.aspx>



2017/03/23 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式

3月21日(火)、日吉キャンパス協生館のイベントホールにて、「東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式」が行われ、清家篤塾長、ヒュー・ロバートソン英国オリンピック委員会(BOA)委員長、林文子横浜市長、福田紀彦川崎市長、竹田恆和日本オリンピック委員会(JOC)会長が出席しました。

慶應義塾大学、横浜市、川崎市は、東京2020大会における英国オリンピック代表チームによる事前キャンプの受け入れについて、2016年2月にBOAと覚書を締結しました。今回の契約は、BOAと3者がそれぞれ取り交わすもので、対象施設、利用期間、競技、交流事業など施設利用やパートナーシップについて取り決めるものです。

慶應義塾大学では、2020年7月3日から8月11日の期間(セットアップ期間を含む)、日吉キャンパスの記念館や陸上競技場、蝮谷体育館を中心に、アーチェリー、フェンシング、近代五種競技、バドミントン、体操競技、卓球、バスケットボール、柔道、テコンドー、ボクシング、空手、ウエイトリフティング、ホッケーの計13種目を受け入れる予定です。施設の提供はもとより、研究・教育・歴史・文化・芸術などスポーツ以外の分野においても交流を深め、地域社会や国際社会への貢献のために協力していきます。

締結式の司会は、卒業生でロンドンオリンピック競泳男子200m銅メダリストの立石諒君が務めました。契約の概要説明に引き続き各代表者による挨拶があり、その後、ポール・マデン駐日英国大使による来賓挨拶、各代表者による契約書への署名を経て締結式は終了しました。

締結式終了後には会場を移し、終始和やかな雰囲気の中、レセプションが行われました。

〈参考〉

東京五輪における英国事前キャンプ地 覚書締結式(2016/02/09掲載ニュース)

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2015/osa3qr000001dc4w.html>

英国オリンピック代表チームウェブサイト(英語)

<https://www.teamgb.com/news/team-gb-secure-tokyo-2020-pre-games-preparation-camp-facilities>



2017/11/02 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会 ビル・スウィーニー最高経営責任者(CEO)が講演会を開催

10月18日(水)、日吉キャンパスにおいて、英国オリンピック委員会(BOA) 最高経営責任者(CEO)のビル・スウィーニー氏が、慶應義塾の職員に向けて、「Legacy and Driving the Olympic Message」と題する講演を行いました。

スウィーニー氏は、英国チームが2012年ロンドン大会、2016年リオ大会と連続して獲得メダル数を増やすなど成功を収めた背景について語りました。スポーツ人口の増加や経済効果といったロンドン大会のレガシーに加え、英国チームには今も多くのファンをひきつけるマーケティング戦略があることなどを紹介しました。

また、開催国の人々、とりわけ次代を担う子どもたちにとって、オリンピックが世界と交流する絶好の機会となることを強調し、東京2020の成功を祈願して講演を締めくくりました。

なお、日吉キャンパスでは、横浜市、川崎市とともに、東京2020大会における英国チームの事前キャンプの受け入れ準備を現在進めているところです。



2018/05/15 横浜市

英国トライアスロン、パラトライアスロンチームの 選手たちと横浜市の小学生との交流会

2018年5月11日(金)・12日(土)に、英国トライアスロン、パラトライアスロンチームの選手たちと横浜市の小学生との交流会が開かれました。

交流会では、まずはそれぞれの簡単な自己紹介。中には英語で元気よく自己紹介をした小学生がいて、選手たちに喜ばれました。それに応えるかのように、選手のひとりが日本語で自己紹介をすると、子どもたちも嬉しそうに大拍手。

自己紹介に続き、選手と生徒混合のグループに分かれ、ワークショップ。英語と日本語で選手へ応援メッセージを記入し、選手とともに発表するなど、英国や、種目に関する質問と応答を交えながらコミュニケーションを深めました。

12日は交流会のあと、英国パラトライアスロンチームの選手たちと、ちょうど開催中の2018ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会の山下公園周辺特設会場へ応援に出掛け、子どもたちはトライアスロンの迫力を身近に感じていました。



2018/05/28 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020英国パラリンピック代表チームの 事前キャンプ覚書締結式開催

慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、東京2020パラリンピック競技大会における英国パラリンピック代表チームの事前キャンプについて、英国パラリンピック委員会(BPA)と覚書を締結し、5月24日(木)に日吉キャンパス協生館のイベントホールにて締結式を行いました。

挨拶に立った長谷山彰塾長は、パラアスリートは人間の潜在力の高さや多様性を教えてくれる存在であるとし、受け入れ事業に携わることは、慶應義塾関係者にとっても素晴らしい体験になると語りました。続いて、各代表者が覚書に署名すると、会場からは温かい拍手が起こりました。4者は、事前キャンプのみならず、さまざまな文化・学術面での交流や、地域社会との交流も見据え、協力していくこととなります。

会場には多くの来賓をはじめ、英国視覚障害者柔道の選手たちも参加し、締結式後の祝賀会では学生と選手が歓談する場面も見られました。

なお、慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、英国オリンピック代表チームの事前キャンプについても、2017年3月、正式に契約を締結しています。



〈参考〉

[プレスリリース]東京 2020 英国パラリンピック代表チーム事前キャンプ 川崎市・慶應義塾大学・横浜市が英国パラリンピック委員会と覚書を締結
英国パラリンピック委員会ウェブサイト(英語)<https://paralympics.org.uk/>

2018/07/12 川崎市

公立保育園での英国給食の提供と併せて 英国交流イベント実施しました！

英国代表チームの事前キャンプ実施の周知と応援の機運醸成のため、川崎市内公立保育園(33園)の1歳児以上約3,400人を対象として、英国を代表する料理であるフィッシュ&チップスとスコーン(おやつ)を提供しました。

2018年7月12日(木)に川崎市内在住英国人のブーヴロウ・ジェット・アクセルさんを川崎市川崎区大島保育園にゲストに招き、園児を対象とした英国交流イベントを実施しました！

英国の遊び「ロンドン橋」を紹介したところ、初めて遊ぶという子どもたちもたくさんいて盛り上がりました！園児がお礼に「川崎踊りいいじゃんダンス」を披露してくれました。ジェットさんも一緒に踊りました！



2018/05/16 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)の大視察団が日吉キャンパスを訪問

5月14日(月)午後、英国オリンピック委員会(BOA)の競技種目代表など45名が、東京2020大会の事前キャンプ地となる慶應義塾大学日吉キャンパスを視察しました。これまでのオリンピック・パラリンピック関連の視察団の中でも最大規模のものです。

渡部直樹常任理事からの歓迎の挨拶に応じて、BOAのビル・スウィーニー最高経営責任者(CEO)は、受け入れに対する感謝とともに、慶應義塾とBOAとの連携が、これから先も順調に進むことを確信している、と力強く語りました。今回の視察には、有志の塾生8名がボランティアとして参加し、視察のサポートを行うなど、交流を深めていました。

〈参考〉

東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式(2017/03/23掲載ニュース)
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/3/23/27-20137/>

英国オリンピック委員会ビル・スウィーニーCEOが講演会を開催(2017/11/02掲載ニュース)
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/11/2/27-37034/>



2018/12/04 川崎市 横浜市

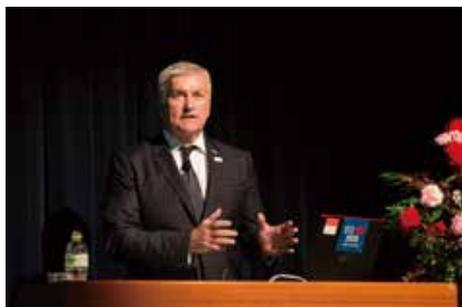
英国オリンピック委員会CEOによる講演会を横浜市と川崎市の合同主催により開催しました!

川崎市は横浜市とともに英国オリンピック委員会CEOであるビル・スウィーニー氏による講演会“Delivering Success After A Home Olympics”[「ロンドン2012大会の経験を踏まえたリオ2016大会での英国オリンピック代表チーム(Team GB)の成功」]を開催しました。

12月4日(火)講演に先立ち福田川崎市長はあいさつの中で、スウィーニー氏への歓迎の言葉とともに「ホストする我々も、英国代表チームを応援していきたい。皆さんもGOGB(ゴージビー)、『がんばれ英国』を合言葉に英国代表チームを応援し、一緒に事前キャンプ、そして東京2020大会を盛り上げていただきたい」と述べました。

スウィーニー氏は講演冒頭に、リオ2016大会のハイライトシーンを集めた動画を流し、「このような素晴らしい大会を東京でも行いたい」と述べました。英国オリンピック代表チーム(Team GB)は、リオ2016大会でのメダル獲得数で、アメリカに次いで世界第2位という成績を収め、その背景には「大会前の事前キャンプの成功があった」と示し、その上で東京2020大会では「時差や暑さ、湿度など環境が大きく異なるため、事前キャンプが特に重要であり、東京にとっても近い横浜市・川崎市で行うことができることを、非常に嬉しく思っている」と述べました。

また、スウィーニー氏は東京2020大会に興味があると答えた英国人は94%というデータから、過去大会よりも高い関心を集めていることを示しました。横浜市でも行われるラグビーワールドカップ2019では「日本がスポーツの国際大会の主権国としてどのような盛り上がりを見せるか、世界が注目している」とし、「規模は違うが、ラグビーワールドカップ2019の成功が、東京2020大会につながるだろう」と、東京2020大会への期待を述べました。



2018/12/26 横浜市

英国事前キャンプ・ホストタウン応援企画 「英国と横浜を知る講座～英国の共生社会文化から学ぶ～」を実施しました

2018年12月3日、英国オリンピック委員会からゲストをお迎えし、栗栖 良依氏による英国の共生社会に着目した講演など英国文化を体験するプログラムを開催しました。当日はご応募いただいた約50名の方がご出席。会場のイギリス館がほぼ満員でした。

まずは、ビル・スウィーニー英国オリンピック委員会CEOから「東京2020大会は日本が持つ文化などを世界に発信する貴重な機会です。また、Team GBの若い選手にとっては、ここ横浜が来日してはじめての場所となります。東京2020大会が素晴らしい大会となることをお祈りしています。」とご挨拶。

続いて、ブリティッシュ・カウンシルの湯浅 真奈美さんにファシリテーターを務めていただき、講演がスタート。

栗栖さんは、骨肉腫を発症し、手術、治療という経験を経て、2011年に「SLOW LABEL(スローレーベル)」を設立。プロダクト製作の中で多くの障害者施設を訪れ、様々な出会いを通して一人ひとり違うことのすばらしさに気がきます。

そして、2012年ロンドンパラリンピックの閉会式で、障害者が特別な存在としてではなくパフォーマンスに参加している様子に驚き、日本・横浜でもできるのではと2014年に「ヨコハマパトリエナーレ」を立ち上げSLOW LABELをNPO法人化。表現者として舞台に立ちたいと願う誰もが、障害を理由にあきらめなくてすむ環境をつくることを目標に、東京2020大会に向け障害のある人のパフォーマンスを支援する「アクセスコーディネーター(※1)」「アカンパニスト(※2)」といった人材の育成に着手しました。

2016年リオパラリンピックの閉会式内のセレモニーではステージアドバイザーを務め、その後舞台での空中演技・エアリアルを使ったトレーニングを日本で取り入れるため、まず障害のある人を指導できる指導者を育成したいと英国の指導者を招き、指導者育成に取り組んでいます。目指しているのは、2021年以降、障害のある人が、自分の住んでいる地域で、自分の好みやレベルに応じたプログラムに障害のない人に混ざって参加できるようになること。これまでも英国のアーティストチームに協力していただき、今後も引き続き積極的に取り組んでいきたい、とのことでした。

講演の後は、この日のために、イングランドの楽曲も練習を積んできてくれた慶應義塾大学のケルト音楽愛好会の皆さんによる演奏に、ティータイムとして英国の代表的なメニュー、ミンスパイ、ソーセージパイ、ショートブレッドを用意。英国が満載な、盛り沢山のイベントとなりました。

※1 障害のあるアーティストが舞台上がるまでのバリアを取り除き、創造性が発揮できる環境を整える人材。

※2 障害のあるアーティストと一緒に舞台上がり創作の可能性を一緒に広げる伴走者。



2018/10/10 慶應義塾大学

英国パラリンピック委員会が日吉キャンパスの施設を視察

9月28日(金)、英国パラリンピック委員会(BPA)から、陸上、ブラインドサッカー、バトミントンなど10種目以上の競技リーダーからなる一行が来塾し、2020年東京大会で英国のオリンピックとパラリンピックチームが事前キャンプを行う予定の日吉キャンパスの各施設を熱心に見学しました。今回の視察には、1992年パラリンピックバルセロナ大会の水泳(50m 自由形 S9)金メダリスト、クリア・カニンガムさんも参加しました。

視察団ははじめに慶應義塾側から2020年3月に竣工予定の施設について説明を受け、BPA側の専門家からは、天井の高さ、床の素材、ライトの照度等、多岐にわたる質問がなされました。次に訪れたプールやトレーニング施設では、多目的トイレの場所やシャワー室の広さ、段差など、バリアフリーの観点も踏まえての視察が行われました。

慶應義塾はBPAと2020年東京大会の事前キャンプ受け入れについて、2017年12月に合意を交わしており、今後も協力を続けていきます。



2018/10/26 慶應義塾大学

アーチェリーとボート競技の英国選手が 慶應義塾大学で合同練習

10月15日(月)～22日(月)にかけて、アーチェリーとボート競技の英国選手が、慶應義塾大学日吉キャンパスでの初めてのトレーニングキャンプを行いました。

慶應義塾大学は、横浜市、川崎市とともに、2020年に英国代表(Team GB)の事前キャンプをホストすることが決定しています。キャンプ期間中、慶應義塾体育会洋弓部、端艇部との合同練習や交流試合が行われ、親交を深めました。

10月19日(金)夜には、駐日英国大使館公邸において、選手を招いてのアフタヌーンティーが開催されました。アフタヌーンティーには、慶應義塾大学端艇部主将も招待され、英国選手に混じてエルゴメーターを漕ぐ場面もありました。



2018/11/02 慶應義塾大学

英国パラリンピック委員会(BPA)CEOの ティム・ホリングスワース氏が長谷山塾長を表敬訪問

10月23日(火)、BPAのCEOであるティム・ホリングスワース氏が来塾し、パラリンピック英国代表(Paralympics GB)の事前キャンプ受け入れ決定から今日までの支援に対し、長谷山彰塾長に感謝の意を表しました。

ホリングスワース氏は、11月からスポーツ・イングランドのCEOに就任することが決まっています。長谷山塾長は、事前キャンプの受け入れについて、これまでどおり大学として確実に支援することを表明しました。また、2020年の事前キャンプが奏功し、英国代表が好成績を取めたときには、その喜びを分かち合うために、ぜひ再訪してくださいとホリングスワース氏に伝えました。



2018/11/16 慶應義塾大学

水泳の英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

11月3日(日)～8日(木)の間、水泳競技の英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを行いました。

今回来日した選手は、11月9日(金)～11日(日)に東京辰巳国際水泳場で開催された「水泳ワールドカップ東京大会」に出場するにあたり、本学で最終調整を行いました。2016年リオ大会のメダリスト、ジェームズ・ガイ選手やシボン・マリエ・オコナー選手も今回のトレーニングキャンプに参加しました。

滞在中には慶應義塾女子高・志木高・湘南藤沢中高の生徒らが公開練習を見学し、選手と記念撮影をする等の交流が行われ、トレーニングキャンプでは体育会水泳部、および理工学部体育会水泳部との合同練習も行いました。



2019/02/15 慶應義塾大学

日吉キャンパスのバリアフリー施設の改善に向けて 英国パラリンピック委員会と連携

2月7日(木)、2020年の事前キャンプ受入れ準備の一環として、英国のグローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDIハブ)の運営ディレクター、イアン・マキノン氏と、英国パラリンピック委員会(BPA)のプレパレーション・マネジャー、アネリ・マクドナルド氏が日吉キャンパス内のバリアフリー施設を視察しました。

マキノン氏は、バリアフリー施設に関する改修などを専門とするコンサルタントです。管財部などから同行した慶應義塾大学のスタッフにとって、マキノン氏の専門家としての知見と2012年のロンドンパラリンピック競技大会での経験を共有する、貴重な機会となりました。慶應義塾は、事前キャンプ本番に向けて既存の施設を適宜更新していく予定です。



2019/03/08 慶應義塾大学

マイク・シャロック英国パラリンピック委員会(BPA)新CEOが 長谷山塾長を表敬訪問

3月4日(月)、BPAの新しいCEOマイク・シャロック氏とパラリンピック東京大会の英国チーム代表の責任者、ペニー・プリスコー氏が、三田キャンパスにて長谷山彰塾長と渡部直樹常任理事を表敬訪問しました。

シャロック氏は、まず、英国チームの事前キャンプを日吉キャンパスで受け入れる慶應義塾大学に対し、感謝の言葉を述べました。慶應義塾大学は、これまでも数々のBPAスタッフの視察を受け入れたほか、事前キャンプの本番に先んじて、日吉キャンパスの関連施設の改修を検討中です。シャロック氏はまた、前任CEOのティム・ホリングスワース氏から、幸運にもプリスコー氏率いる強いチームをそのまま引き継いだこともあり、トップの移行が非常にうまく進んだ、と明かしました。

シャロック氏は、この1月にCEOに着任したばかりですが、2012年ロンドン、2016年リオの両大会において、ティア1スポンサーのひとつであるBP社のパートナーシップの責任者でした。そうした経験から、同氏は、パラリンピック・ムーブメントのもつ力と、社会に非常に大きなインパクトをもたらすパラ・アスリートのポテンシャルというものを強く確信し、東京でも同様の変化が起きるのを、心から楽しみにしていると語りました。

長谷山塾長は、教育という側面から、英国のスポーツ、特に大学スポーツに敬意を抱いている、と応じました。スポーツのアマチュアリズムは、オリンピック・パラリンピックの精神と同様、英国の大学スポーツに由来するからです。また、長谷山塾長は、前日に開催された東京マラソンの種目に車いすマラソンが含まれていることなど、日本においても障がい者スポーツに対する関心が高まっていることを指摘した上で、慶應義塾大学も引き続き英国パラリンピックチームを支援することを約束し、英国チームとスタッフからできるだけ多くを学びたい、と改めて表明しました。



2019/03/14 川崎市

きかんしゃトーマスとなかまたちが 川崎市英国事前キャンプのPR大使に就任します！ トーマス、ジェームス、パーシーがPR大使に就任

より多くの方々に英国代表チームのことを知り、応援してもらいたいとの思いから、「きかんしゃトーマスとなかまたち」のマスターライセンスを保有する株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ(本社:東京都港区、代表取締役:長谷川 仁)の協力のもと、「トーマス」、「ジェームス」、「パーシー」が、川崎市での英国事前キャンプ受入れに向けたPR大使として就任しました。

2019年4月から、「きかんしゃトーマスとなかまたち」のPRデザインを使用して、英国代表チームのキャンプ情報や関連イベントのお知らせなど、チラシ、ポスターをはじめとしたさまざまな広報媒体を通じて、川崎市全域で応援機運を醸成していきます。



行政とのコラボレーションは初めて

「きかんしゃトーマス」は、イギリスの牧師、ウィルバート・オードリーが描いた「汽車のえほん」シリーズから生まれたキャラクターです。ソドー島という島を舞台に、そこで働くトーマスや機関車のなかまたちが、さまざまな出来事を通じて友情をはぐんでいくストーリーは、こどもたちに大人気。2020年には、原作出版75周年を迎えます。

広報用として使用する主なPRデザイン

左からパーシー、トーマス、ジェームズの3キャラクター。川崎市のブランドメッセージの3色で英国との友情を表現しました。これらのPRデザインは英国事前キャンプの関連イベントお知らせや、チラシ、ポスターなど、さまざまな広報媒体で使用します。

© 2019 Gullane (Thomas) Limited. (注意)これらの著作物の全部または一部を著作権者の許諾を得ずに複製することは著作権法で禁じられています。

2019/05/16 川崎市

英国陸上チームと、 川崎の市立高校陸上部メンバーとの交流事業を開催しました

令和元年5月8日(水)、IAAF 世界リレー2019 横浜大会(11日、12日、横浜国際総合競技場)に出場する英国代表チームと、市立高校の陸上部メンバーとの交流事業を開催しました。

英国代表リレーチームは、2017年世界陸上での金メダリスト(男子)、リオ五輪での銅メダリスト(女子)など、そうそうたるメンバーを擁しています。

世界トップレベルの選手とコーチに直接会える機会を得た川崎市立橋高等学校、川崎市立川崎総合科学高等学校、川崎市立高津高等学校の陸上部のメンバーたち59人は、スタンドから食いつくように選手たちの練習風景を見つめていました。

スキルクリニックでは、コーチのステイブーン・マクガイアさんから直接指導を受けました。英国選手たちも高校生の列に混じって、同じメニューをこなします。その後、グループに分かれてバトンパスリレーや、シャトルラン形式のリレーに挑戦。勝ったチームは、英国選手と「ハイファイブ」で喜び合いました。

速く走れるようになるためにはどうすればいいか教えてください」という高校生からの質問に対して、「よく練習して、よく寝て、よく食べて、決して諦めないこと」と回答してくれたのは、アニカ・オヌオラ選手でした。彼女は、リオ五輪の4×400リレーで銅メダルを獲得した走者の一人です。

高校生たちは英国代表チームから贈られたピンバッジを手に、「(週末にある)大会で自己ベストを出したい」と目を輝かせていました。



2019/05/20 横浜市

ローズ&ガーデンマーケットで英国事前キャンプホストタウンをPR!! ～英国と横浜をつなぐ親善大使のひつじのショーンが大活躍!～

最高のお天気に恵まれた5/18(土)、19(日)の週末、今回初開催となる「横浜ローズウィーク」の一環で、日本大通りで開催された「ローズ&ガーデンマーケット」において、英国事前キャンプホストタウンPRブースを出展しました。

ここでは、英国事前キャンプについてのパネルを展示。英国と横浜をつなぐ親善大使の「ひつじのショーン」のオリジナル缶バッジのワークショップを実施したほか、折り紙で作ったバラに英国チームへメッセージを書いていただくなど、多くの方に参加していただきました。特に、ひつじのショーンの缶バッジのワークショップには長蛇の列が!横浜オリジナルデザインのショーンの缶バッジに、みなさん大変喜んでいただきました。

また、「ひつじのショーン」も大きなバラの花を持って登場し、「GO GB」を合言葉にショーンと一緒に写真を撮るなど、英国事前キャンプのPRと賑わいづくりに大活躍でした。多くの来場者にご参加頂き大盛況の2日間でした。



2019/06/04 横浜市

2019年英国トライアスロンチーム・パラトライアスロンチームとの交流

今年も5月18日(土)、19日(日)に2019ITU世界トライアスロンシリーズ・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が開催されたため、大会前日の5月17日(金)に、英国トライアスロンチーム・パラトライアスロンチーム17人と横浜市立本町小学校5年生30人の児童の皆さんとの交流プログラムを実施しました。

交流会会場では、本町小学校の児童の皆さんが「GO GB」の旗を振って英国選手をお出迎え。はじめにITU事務局長からご挨拶があり、英国チーム自己紹介ののち、5つのグループに分かれて生徒たちの自己紹介。英語でチャレンジする児童も多く選手も熱心に耳を傾けてくれました。

児童から選手への質問では、「競技を終えた時はどんな気持ち?」「もし、自転車がこわれちゃったら、どうする?」「トライアスロンをはじめたきっかけは?」「3種目(水泳・自転車ロードレース・長距離走)の中で、いちばん大変な種目は?」など積極的に質問が飛び交い、選手の皆さんの答えを真剣にメモを取っていました。

また、選手たちにお気に入りの応援フレーズを覚えてもらい、各グループごとに発表!「GO GB!」「Come on!」「Let's Go GB!」「ICE (S) CREAM!」などグループごとにまとめた内容を児童の皆さんは立派に発表してくれました。

最後に、四季の森小学校の児童の協力で作成してくれた花の写し絵カードに、児童が英国チームあてにカードにメッセージを書いてプレゼント。更に本町小学校の児童から、歌と踊りと応援のプレゼントに英国選手の皆さんは大喜びでした。そして、レース前の緊張がほぐれた選手等全員で記念写真を撮って、ハイタッチで選手たちを送り出しました。



2019/05/16 川崎市

英国パラリンピック委員会(BPA)と川崎市は 東京2020大会事前キャンプ施設利用に関する契約を締結しました

2019年4月24日(水)に、英国パラリンピック委員会(BPA)CEOのマイク・シャロック氏が来日し、川崎市の福田市長と事前キャンプに向けた施設の賃借に関する契約書を取り交わしました。

今回は、陸上競技について利用調整及び契約内容が整ったため、川崎市等々力陸上競技場に関して先行して契約したものです。

シャロックCEOは、「昨年の覚書締結に続き、BPAと川崎市との関係の重要な節目を示すことになる。ワールドクラスの等々力陸上競技場で、大会への最終調整を行えることは選手にとって大変有益。」と事前キャンプへの期待を寄せました。

川崎市では、これを契機に、英国のホストタウンとして、2020年に向けて事前キャンプの受入準備を進めるとともに、交流を促進するための具体的な取組を推進していきます。



2019/07/11 慶應義塾大学

BOAスタッフと慶應義塾職員が準備会合を実施

7月4日、BOA(英国オリンピック委員会)のスタッフと義塾職員が、今回の英国代表チーム(チームGB)の日吉キャンパスでのトレーニングキャンプと、2020年に向けての準備会合を行いました。

ルイス・コギンズ氏(事前キャンプ・プロジェクトマネージャー)がBOAのさまざまな活動についてプレゼンテーションを行ったほか、ナサニエル・ライリー・オドネル氏(事前キャンプ・スポーツマネージャー)、アミア・アシュトン・ジョーンズ氏(プログラムマネージャー)、ニッキー・フィリップス氏(事前キャンプ・ヘッド)が参加しました。

義塾からは、日吉運営サービス、塾長室、グローバル本部の職員が出席しました。今回のキャンプから今後の課題まで、約2時間にわたり現場同士の濃密で活発な議論が交わされました。



2019/08/29 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)、 パラリンピック委員会(BPA)が信濃町キャンパスを訪問

8月14日(水)、英国オリンピック委員会(BOA)と英国パラリンピック委員会(BPA)の一行計9名が、信濃町キャンパスを訪問しました。

東京オリンピックのメイン会場であるオリンピックスタジアム(新国立競技場)に最も近い病院である慶應義塾大学病院の外来や病棟に加え、救急センターやMRI等の画像診断設備、予防医療センターを視察しました。

病院の見学後、総合医科学研究棟1階ラウンジにおいて、医学部との合同セミナーが開催されました。スポーツ医学研究センターの石田浩之教授の司会のもと、天谷雅行医学部長が医学部・病院の紹介を行い、英国代表チームパフォーマンスサービス責任者のグレッグ・レッター氏が英国代表チームのオリンピックへ向けた準備状況についての講演を行いました。続いて、英国代表チームの医療チーフであるニール・エリオット医師と慶應義塾大学精神・神経科の水島仁医師により、スポーツにおける脳震盪に関連した診断や管理、症例の研究などについての講演が行われました。セミナー後にはオリンピックを見据えた講演の内容についてBOA、BPAおよび医学部の教員、学生等の参加者による活発なディスカッションが行われました。

慶應義塾大学は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて英国代表チームの事前キャンプを日吉キャンパスで受け入れ、研究・教育・歴史・文化・芸術などスポーツ以外の分野においても協力していく予定です。今回の訪問は、BOA、BPAと医学部・慶應義塾大学病院の関係者が相互に理解と交流を深める機会となりました。

本学とオリンピック・パラリンピックに関しては、以下のページで随時、情報発信しています。



2019/09/12 慶應義塾大学

柔道の英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

8月21日(水)～23日(金)の間、柔道の英国代表チーム(Team GBおよびParalympicsGB)が日吉キャンパスの柔道場でトレーニングキャンプを行いました。

1年後に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会出場に向けて、本国との時差や、大会本番と同時期の日本の気候に慣れるための調整を中心にトレーニングを行いました。柔道選手としての精神修養の一環として、練習の最後には道場を掃除してトレーニングを終えました。

8月22日には、英国放送協会(BBC)の取材も入り、英国内でも東京2020大会と選手の活躍にますます関心が高まっています。



2019/09/24 慶應義塾大学

テコンドー英国代表チームが日吉キャンパスの施設を見学

大型台風が過ぎ去った翌日の9月10日(火)、テコンドー英国代表チーム一行が、晴天の日吉キャンパスを訪れました。

今回は、パフォーマンスディレクターを務めるゲアリー・ホール氏を含むメンバー14名が、来年の事前キャンプ中、練習や食事でする可能性のある協生館などの各種施設を見学しました。

今回初めて日吉キャンパスを訪問したメンバーは、協生館内に施された装飾をとても喜び、お互い記念写真を撮りあっていました。また、協生館から見える日吉キャンパスの風景に感銘を受け、見入っていました。



2019/10/08 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第1弾!】横浜国際プールで英国水泳代表チームのプレ事前キャンプが行われました!

2019年7月8日(月)～16日(火)に、2019年世界水泳選手権(7/12～28に韓国・光州で開催)に向けた英国水泳代表チームのプレ事前キャンプが横浜国際プール(横浜市・都筑区)で行われました。

英国代表チームは総勢56人が来日(選手30人・スタッフ26人)。ボランティアとして、総勢33人の方々にお手伝いいただき、9日間に渡り英国選手の皆さんのトレーニングをサポートしました。

7月8日(月)、キャンプ初日の朝は、近隣小学校の児童の皆さんおよそ370名が「GO GB」の旗などを手に、チームの皆さんをお出迎え。選手もスタッフも、子どもたちの歓迎ぶりに、思わず笑みがこぼれ、初日のトレーニングに向け、国際プールへと入って行きました。横浜国際プールでは、選手たちの活躍を願って、英国チームが主に使用するメインプールを中心に、英国旗や応援旗、児童有志によるガラスアートなどで装飾。沢山の英国旗やGO GBのメッセージで応援を伝えました。第2弾以降で詳細についてお伝えします!



2019/10/15 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第2弾!】公開練習に総勢700名の子どもたちが参加しました!

7月8日(月)~16日(火)の英国水泳代表チームのプレ事前キャンプでは、7月12日(金)と13日(土)に公開練習を行いました。

オリンピックのメダリストも多数在籍する英国の水泳代表チーム。参加した総勢700名の子どもたちは、世界的なトップアスリートたちの生の泳ぎを間近で見学しました。

まずは、横浜国際プールの林支配人による解説を聞きながら、選手たちの迫力ある泳ぎを見学。選手たちがリレーの練習やタイムをとる練習を始める時は英国チームのスタッフたちが教えてくれ、子どもたちも「GO GB!」の掛け声とともに、熱心に声援を送っていました。

その後、英国チームのスタッフやトレーニングを終えた選手が、子どもたちがいる観客席まで来てくれ、子どもたちからの質問に答えてくれました。選手たちへの質問タイムでは、「一日の練習時間はどのくらいですか?」や「どうして水泳を始めようと思いましたか?」「どうやったら練習に集中できますか?」など、多くの質問が飛び交います。

リオ2016大会で銀メダリストのジェームス・ガイ選手は、「僕は3才までは、まったく泳げず金槌だった。でも学校に通うようになって、水泳の楽しさを知り、地元の大会に出られるように頑張っって練習を積み重ねた結果、今の僕がある」と、何事にも日々の努力が大事だということ子どもたちに教えてくれました。

最後は、選手の皆さんが子どもたちに交じって、記念撮影。貴重な体験をした子たちは、みんな笑顔で会場を後にしました。第3弾では、英国選手の日本文化体験の様子をお伝えします!



2019/10/21 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第3弾!】英国水泳チームが日本文化を体験!

7月12日(金)と15日(月)の2日間、英国チームの皆さんに少しでも日本文化を味わっていただこうと、トレーニングの合間に日本文化の体験プログラムを実施しました。

今回、用意したのは、着付け体験、書道レッスン、折り紙レッスンの3つ。それぞれのブースで、都筑区で活動する講師の先生方にご協力いただきました。

ブースに立ち寄ってくれた選手やスタッフの皆さんは、休憩時間とあってリラックスした様子。女性に人気だったのは浴衣・着物の着付け体験で、鮮やかな色合いの着物の袖に手を通し、様々なポーズで写真を撮っていました。

折り紙レッスンでは折り鶴に挑戦。初めての折り紙に少々苦戦しながらも、色とりどりの折り鶴を綺麗に作成。先生ご持参の折り紙作品に感嘆していました。

書道体験では、英語で意味が添えられた漢字リストから、思い思いの漢字を選んだり、自身の泳法の漢字を聞いて、はがきに筆ペンで清書。特に人気だったのは名前を漢字で書くプログラムで、書道の講師の方に自分の名前を漢字で書いてもらい、その後何度も熱心に練習していました。自分だけではなく、家族や友人の名前などをカードに書いて持ち帰っていく選手も。

慣れない環境の中、毎日非常にハードな練習メニューをこなす選手たちにとって、この日本文化体験プログラムが憩いの場となっていたら幸いです。第4弾では、横浜国際プールの装飾についてお伝えします!



2019/10/29 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第4弾!】横浜国際プールが英国歓迎ムード一色に!

9日間に渡るキャンプ期間中、歓迎と応援の気持ちを伝え、世界水泳での英国選手の皆さんの活躍を願い、横浜国際プールを様々な形で装飾しました。

横浜市営地下鉄グリーンライン北山田駅から横浜国際プールまでの長い階段に、近隣の住民の方々のご理解の下、のぼり旗と階段装飾を設置。車両入場時に一番目に目に入る正面入り口のポールには英国旗を掲げました。

英国水泳チームが練習するメインプール内には、GO GB 2020の大きな応援バナーや「勝」と書かれた横断幕、英国旗を装飾。英国チームが使用するミーティングルームのガラスには、都筑区の子どもたちが作成してくれた、英国と横浜のモチーフをふんだんに取り入れた、色鮮やかなガラスアートを設置しおもてなし。一般のお客様も出入りする正面ロビーには、キャンプ期間前から英国応援ブースを設置。英国や横浜のつながりを紹介するPRパネルや、英国と横浜をつなぐ親善大使「ひつじのショーン」のフォトパネルのほか、英国ぬりえコーナーが登場! 国際プールに来場した子どもたちがたくさんの英国ぬりえを作ってくれ、前を通る選手のみならずも嬉しそうに眺めていました。第5弾では歓送セレモニーについてお伝えします!



2019/11/05 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第5弾!】歓送セレモニーを行いました!

キャンプ最終日の7月16日(火)、9日間に渡るキャンプを終えた英国代表チームの皆さんを送り出すため、近隣小学校の児童の皆さんによる歓送セレモニーを行いました。

横浜国際プールコーラスクラブの皆さんによる『Believe』の合唱にのせ、最終練習を終えた英国チームの皆さんが入場。

北山田小学校の皆さんから選手たち1人1人へのメッセージカードが贈られ、東山田小学校の皆さんはリコーダーで『世界の約束』の演奏をプレゼント。続いて、横浜市より、英国チームの皆さんに、激励の言葉とともに記念品を贈呈。

英国代表チームのリーダー、クリス・スパイスさんからは、お礼の言葉とチームの皆さんが寄せ書きをしたメッセージボードをいただきました。最後に、全員で記念撮影した後、子どもたちが花道を作ってくれ、英国チームの皆さんを無事に送り出すことが出来ました。参加してくれた選手・スタッフは皆さん笑顔で横浜国際プールを後にしました。

9日間に渡る、横浜国際プールでの初めての英国事前キャンプは、2020年に向け様々な側面でシミュレーションをする事ができる貴重な機会となりました。次回は1年後、いよいよ東京2020大会に向けた事前キャンプです!

これからも英国代表チームの応援をよろしくお願いします!



2019/11/13 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)の 新CEOアンディ・アンソン氏が長谷山塾長を表敬訪問

11月5日(火)、BOAのCEOに新たに就任したアンディ・アンソン氏が、リーガル・ディレクターのシャハブ・ウディン氏とともに三田キャンパスを訪れ、長谷山彰塾長、渡部直樹常任理事、小尾晋之介常任理事と面会しました。

アンソン氏は、2017年のBOAとのパートナーシップ契約締結以来、日吉キャンパスを訪れた選手やスタッフは皆、慶應義塾が提供する環境や教職員・学生のホスピタリティあふれる対応に大変満足していると述べ、これまでの協力と支援にあらためて感謝の意を表しました。これを受けて長谷山塾長も、体育会の学生が英国代表チームの選手らと交流するまたとない経験ができたことや、医学部の教員が2012年ロンドンオリンピックの際の医療関係者を訪問し、大会期間中のオペレーションについて学ぶ貴重な機会を得たことを例に挙げ、お礼の言葉を述べました。



2019/11/14 川崎市

アンディ・アンソン英国オリンピック委員会新CEOが 福田市長を表敬訪問されました

福田紀彦川崎市長を表敬訪問、等々力陸上競技場の視察も

11月5日(火)、アンソン新CEOからは、台風19号で川崎市が受けた被害に対するお見舞いととも、「今年5月に陸上選手たちが、等々力陸上競技場でトレーニングを行い、世界クラスの競技場を肌で経験した。東京2020大会に向けて、最高の環境で準備できると確信している」との言葉がありました。福田市長は「英国オリンピック代表チームの事前キャンプが川崎市で行われることは、我々市民を大いに勇気づけてくれるだろう」と、英国事前キャンプへの期待を伝えました。

アンソン氏はその後、英国オリンピック代表チームの、陸上、女子サッカー、男女7人制ラグビーが事前キャンプを行う等々力陸上競技場を初めて視察されました。競技場の芝生の美しさや、青く真新しいトラックを確認し、「このような素晴らしい施設で事前キャンプを行える選手たちは非常にラッキーだ」と喜んでおられました。



2019/11/22 横浜市

11月5日(火)英国オリンピック委員会(BOA) 新CEOアンディ・アンソン氏が林文子横浜市長を訪問されました

林文子横浜市長を表敬訪問、英国代表チーム受入れへ期待を表明

11月5日(火)、英国オリンピック委員会(BOA)の最高経営責任者(CEO)に就任したアンディ・アンソン氏が、シャハブ・ウディン法務局長とともに、林文子横浜市長を表敬訪問されました。

アンソン新CEOは、英国プレ事前キャンプをはじめとする今までの横浜市の協力に対し深く感謝の意を述べたほか、「チームとしても非常に素晴らしい横浜の施設に感銘を受けている、2020年を十分に整った形で迎えられれば」との言葉をいただきました。

また、11月2日に横浜国際総合競技場で行われたラグビーワールドカップ2019TM決勝戦を観戦され、「素晴らしいスタジアムとホスピタリティに感動した」との事で、東京2020大会に向けて、「ラグビーワールドカップの素晴らしい結果を拝見して、組織としても、サポート体制としても大変感銘を受けたので、次のイベントであるオリンピック・パラリンピックも十分成功すると自信を持っていえる」とも述べました。



林市長からは、「英国代表チームの事前キャンプ地に選ばれたことを光栄に思う。また、選手の皆さまには、市内の子どもたちとの交流機会をいただき、大変ありがたく思っている。今後も、選手の方が気持ちよく実力を出せるように、横浜市で一体となって、心をこめて全力で英国のみなさんをお手伝いさせていただく。」と、英国代表チームへの感謝と期待を伝えました。

2019/10/28 慶應義塾大学

ボート競技の英国パラリンピック代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

10月3日(木)～8日(火)の間、ボート競技の英国代表チーム(ParalympicsGB)が日吉キャンパス協生館でトレーニングキャンプを行いました。

開催まで1年を切った東京2020パラリンピック競技大会出場に向けて、事前キャンプ地となる日吉キャンパスの施設を実際に使用した練習とあり、選手たちは常に集中力を切らさず、真剣な表情でトレーニングに励んでいました。滞在中、チーム一行は協生館でのトレーニングのほか、パラリンピックの都内会場の視察も行いました。



2019/12/09 慶應義塾大学

トランポリンの英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

11月20日(水)～23日(土)の間、英国代表チーム(Team GB)のトランポリン選手が日吉キャンパス蝮谷体育館でトレーニングキャンプを行いました。

東京2020オリンピック開催まで残すところ約8ヶ月、チームがこの施設を使用するのは、7月以来2度目となります。チームの来日直前、慶應義塾体育会器械体操部(トランポリン)部員がベッドを新しく張り替えました。選手たちは、真新しいベッドから高度な技を次々と繰り出しました。

その後11月28日(木)～12月1日(日)に有明体操競技場で開催された世界選手権大会で、英国チームは女子団体が2位となりました。



2019/11/11 横浜市

～日英交流年「UK in JAPAN 2019-20」～ BBCスコティッシュ交響楽団の演奏者と横浜市内の小学生が音楽で交流

在日英国大使館とブリティッシュ・カウンシルの日英交流年「UK in JAPAN 2019-20」の一環で、英国で125年の歴史を持つ世界最大級クラシック・ミュージック・フェスティバル「BBC Proms」が2019年10月に日本初開催。初来日した「BBCスコティッシュ交響楽団」と北山田小4年生93人、東山田小5年生110人が、10月28日に音楽による交流を行いました。

児童がスコットランドの旗やウェルカムボードを掲げてお出迎え。交響楽団の皆さんも笑顔でハイタッチしたりするなどすぐに打ち解け、あいさつがわりの演奏で交流スタート! 間近での演奏にとっても興味深く耳を傾けていました。つづいて演奏者がそれぞれ自己紹介と楽器紹介! フルート、ホルン、トランペット、バイオリン、ビオラ、チェロ、パーカッションです。

BBCスコティッシュ交響楽団では、子どもや高齢者、障害者など、多様な方々との音楽を用いたワークショップを盛んに行っており、今回の交流の中でも、楽器を使わず、声や、体を叩いて音を出すボディパーカッションを使って、短い時間ながら全員で「コネクトイット」という一つの曲を作り上げました。みんなで体を動かした後は、交響楽団から、ムソルグスキー「展覧会の絵」から3つの曲を演奏。最後は、スコットランドの伝統音楽の演奏にのって、児童たちの踊りで締めくくりました!

音楽交流の後、北山田小学校では、演奏者が各クラスに分かれて児童たちと一緒に昼食。児童が英語で一生懸命話しかけたり、演奏者の皆さんにお箸の使い方を教えたり、お豆をお箸でつまむ難しさを楽しんだり、笑い声が絶えませんでした。



2019/11/11 川崎市

川崎市立さくら小学校で英国交流イベントを開催しました 英国について学んで、英国代表チームを応援しよう!

川崎市では、10月31日(木)川崎区にある市立さくら小学校で、駐日英国大使館オリンピック・パラリンピック参事官のグレッグ・マルハーンさんをゲストにお招きして、4年生児童との交流事業を実施しました。

まずは、マルハーンさんから、英国に関するクイズを出していただき、英国発祥のスポーツ(サッカー、ラグビー、ホッケー)や、英国の首都ロンドンではこれまでに3回(1908年、1948年、2012年)夏季オリンピック・パラリンピック大会が行われていることを学びました。さらに、英国と日本の小学校の違いや、マルハーンさんがお勤めの大使館の仕事についても教えていただきました。

この日は、ラグビーワールドカップ2019の決勝戦を週末に控えていたこともあり、ラグビーについても話題が及びました。「英国には、いくつラグビーチームがあるでしょう」という質問に対して、児童たちは少し悩んだ様子ながら、見事4つのチーム(イングランド、ウェールズ、アイルランド、スコットランド)を言い当てました。

交流会の後、みんなで給食をいただきました。さくら小学校創立10周年記念の献立は、児童たちに大人気の味噌ラーメンと唐揚げ、そして湘南ゴールドのゼリーでした。炭水化物を補うために小さなシソおにぎりもついています。

「英国の小学校には給食がないので、みんなサンドイッチなどの軽食を持って学校へ行きます」とマルハーンさんから教えていただきました。



2019/11/28 川崎市

「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」募集結果について

サポーター登録者が決定しました

川崎市では、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプに向けて、2019(令和元)年7月1日から9月2日まで事前キャンプで活動するボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」を募集しました。

たいへん多くのご応募をいただき、選考の結果230名のサポーター登録者を決定いたしました。

登録手続きが完了したサポーターは、2020(令和2)年2月以降、座学・実地研修、英国オリンピック委員会及び英国パラリンピック委員会による英語での研修等を受講後、来年夏の事前キャンプ時に活動する予定です。

詳細については、以下のURLにある川崎市のホームページをご覧ください。
<http://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/page/0000112623.html>



英国代表チーム
川崎キャンプサポーター

2020/01/24 横浜市

英国事前キャンプ横浜市ボランティア 「横浜ホストタウンサポーター」を募集しました!

横浜市は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チーム事前キャンプを円滑に実施するため、英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」を募集し、令和元年12月20日から令和2年1月21日の応募期間に、募集人数の100人程度を大きく上回る1,431人の皆様にご応募いただきました。英国代表チームにとってベストな準備環境を作れるよう、またサポーターの方々がいきいきと活躍いただけるよう、引き続き準備を進めていきます。



【今後のスケジュール(予定)】

2020年

- 1月末 応募者へ抽選結果を通知、個別オリエンテーション(説明会・面談等)案内通知
- 2月下旬 個別オリエンテーション実施
- 3月上旬 「横浜ホストタウンサポーター」決定通知
- 3月下旬 英国代表チームによる全体オリエンテーション実施
- 5～6月頃 役割別研修・リーダーシップ研修、ユニフォーム等受取
- 7月初旬 英国代表チームによる全体研修
- 7月 活動実施

2019/12/20 横浜市

「英国パラリンピック委員会選手団長講演会」が 桐蔭横浜大学で行われました

2019年12月4日(水)、桐蔭横浜大学において、英国パラリンピック委員会選手団長のペニー・ブリスコー氏とパフォーマンス責任者のトム・ポールソン博士が、桐蔭横浜大学でスポーツ科学について学ぶ学生などを対象に、「Towards Tokyo - 東京2020大会に向けて」をテーマに講演を行いました。

両氏は、パラスポーツの歴史や東京2020大会での注目選手の紹介を交えながら、東京2020大会に向けて、英国パラリンピックチームParalympicsGBが行ってきた取組について発表しました。

また、スポーツを通じて障害者のためのより良い社会づくりを目指すというビジョンのもと、2012年ロンドン大会が次世代の子どもたちにもたらした素晴らしい教育プログラムについても紹介しました。

最後に、2016年リオ大会の際に、英国大手テレビ局Channel 4によって作成された英国パラ選手たちを応援するPRビデオを鑑賞し、東京2020大会の成功を祈願して講演を締めくくりました。



2020/01/24 横浜市

英国コヴェントリー市の子どもたちが横浜を訪問!

2019年11月19日、英国コヴェントリー市からオリンピックスタディツアーで来日した児童10名が、東京2020大会競技開催都市である横浜市を訪問。児童・生徒の皆さんと交流しました。

まず向かったのは東京2020大会の野球・ソフトボール会場、横浜スタジアム。ソフトボール女子日本代表チームと市立立野小6年生の皆さんの交流会と一緒に参加しました。

交流会では、市立横浜商業高校10名の皆さんがコヴェントリーの児童とペアになり語学サポート。歓迎に思わず笑みがこぼれます。選手によるデモンストレーションの後、数人が実際にバッターボックスに立って選手たちの剛速球を体感。あまりの速さに思わず固まってしまう子も。その後チームに分かれ玉入れに挑戦しました。

横浜スタジアムの施設見学を行った後、新横浜のラーメン博物館へ移動し昼食タイム。ここからは市立篠原中6名、大綱中3名の生徒の皆さんが語学サポートしてくれます。

最後は、ラグビーワールドカップ2019のイングランド代表チーム決勝の地であり、東京2020大会でサッカーの舞台となる横浜国際総合競技場施設ツアーへ。コヴェントリーの皆さんもラグビー決勝をテレビ観戦していて、選手と同じフィールドにみんな大興奮。控室など普段入ることの出来ない施設の裏側に熱心に写真を撮ったり、フィールドで引率の先生たちと競走したり、VIP席に座ったり。各自思い思いに、競技場の壮大なスケールを満喫していました。

語学ボランティアを務めてくれた生徒の皆さんも、「自分の英語が英国の小学生に通じるか不安だったけど、皆とても協力的で、最後には仲良くなれて参加して良かった」「普段できないことに挑戦してみた良かった」「言葉の壁があってもスポーツを通してコミュニケーションをとることができると再確認できた。」「英語で話すことの楽しさを知れた。」「日本との色々な違いも知ることができ、自分も日本について色々な事を伝えることができたと思う。」と、貴重な体験を楽しんでくれたようでした。



2020/01/28 川崎市

朝原宣治氏と多川知希氏の講演より ～GO GB 英国フェスティバル～英国をもっと好きになろう!～

11月23日(土・祝)高津市民館で「GO GB 英国フェスティバル～英国をもっと好きになろう!～」を開催しました。当日は荒天にも関わらず多くの家族連れでにぎわいました。

本イベントのトークショーゲストとして、北京2008大会の4×100mリレーで銀メダルを獲得した朝原宣治(あさはらのぶはる)氏、リオ2016大会の4×100mリレーで銅メダルを獲得した多川知希(たがわともき)氏をお迎えし、お話を伺いました。

ロンドン2012大会をお手本に～朝原宣治氏の講演より

ロンドン2012大会では、陸上の解説者として大会に関わった朝原氏は、「ロンドンオリンピックはこれまでで最高の大会だったと思う」とし、その理由の一つとして、ご自身がロンドンのスタジアムで体験した超満員の盛り上がりの様子について語りました。特に10,000mで英国のファラー選手が優勝した時の表彰式では、会場中が総立ちで国歌を大合唱する様子に「鳥肌が立った。あのような一体感を東京でも味わえたら最高だと思う」と話しました。

「ロンドン2012大会をお手本に、日本でもさまざまなレガシーを残すことが大切」とし、「スポーツに参加できる機会を増やしたり、文化交流を続けることはもちろん、子どものために学校の部活動に代わるクラブのような仕組みも出来ればいい」という考えを述べました。



9万人の観客で埋め尽くされたロンドン2012パラリンピック～多川知希氏の講演より

多川氏は、生まれつき右前腕部が短い障害があります。ロンドン2012大会では、100m(T46)で5位、4×100mリレー(T42-46)で4位。リオ2016大会では100m(T47)で9位、4×100mリレー(T42-47)で銅メダルの成績を残しました。「クラウチングスタートの時に肩の高さを合わせるため」に、美しい龍の絵が描かれた重さ約200gの義手を着けています。

多川氏は現在33歳。東京2020大会で100mに出場するために、今はトレーニングに励む日々です。リオ2016大会ではゴールした時点で4位でしたが、アメリカチームの失格で繰り上がり銅メダルとなりました。東京2020大会出場についても「最後まで諦めず頑張りたい」と意欲を語りました。

多川氏がリオ2016で銅メダルを獲った4×100mリレー(T42-47)は、東京大会では行われません。代わりに開催される競技のユニバーサルリレーについて「さまざまな障害を持った選手が男女混合で走るところに注目してほしい」と見どころを紹介しました。

パラスポーツの楽しみ方について問われると、「パラスポーツは、ただ障害を持っている人が行っている競技ではない」ことを強調した上で、「(パラアスリートが)それぞれの困難を乗り越えて、大きな舞台に立っているところをしっかりと理解すると、また見方が変わると思う」と語りました。



ス

2020/04/23 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020大会延期に関する 英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会 およびUKスポーツによる共同声明

3月24日(火)、国際オリンピック委員会と東京2020組織委員会は、新型コロナウイルスの世界的な大流行を受け、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を延期し、遅くとも2021年夏までに開催することを発表しました。これを受け同日、英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会およびUKスポーツは、共同声明を発表しました。



BOA、BPA、UKスポーツ共同声明(2020年3月24日)私訳

英国オリンピック委員会(BOA)、英国パラリンピック委員会(BPA)、UKスポーツは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期のニュースを歓迎します。

BOA アンディ・アンソンCEO

「延期を受け入れるのは非常に胸が痛みますが、COVID-19が国民、コミュニティ、家族に及ぼした壊滅的なインパクトに照らして勘案すると、我々が支持する判断はこれ以外にありません。UKスポーツおよびBPAとともに、夏季オリンピック・パラリンピックスポーツの国内統括団体、ならびにBOAのアスリート委員会および英国アスリート委員会を含むアスリート代表グループとも協議しました。関係者一同は、COVID-19がアスリートのトレーニングや大会準備に与えた負の影響は、もはや挽回可能な範囲を超えたという点において一致しています。今は東京2020大会のことを考えるのをやめ、家で安全に家族と過ごす時です。このような時に国内でも世界においてもオリンピックに向けた準備を続けるのは、やはり困難を極めます。延期は正しい判断です。我々は東京2020組織委員会、そしてIOCの委員の方々が、この困難な課題から良い結論を導き出すためのご苦労は大変なものであると認識しています。オリンピックは我々の希望の証であり、この暗黒期から世界が再び立ち上がる瞬間を東京で迎えることができると確信しています」。

UKスポーツ サリー・マンディCEO

「IOC、IPCおよび日本による東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期決定を歓迎します。我々が直面している前例のないグローバルな課題を踏まえ、本日発表されたことによって、アスリート、コーチ、サポートスタッフが、この非常に困難な時期に本当に重要なことに専念でき、本人と家族の安全を保つことができるようになりました。COVID-19によって引き起こされた混乱による延期が、関連する組織等にとっても大きな経済的影響を与えることを認識しており、幅広い影響とシナリオを特定するために懸命に取り組んでいます。夏季オリンピック・パラリンピックのスポーツとアスリートをサポートする最善の方法を確立するため、政府と緊密に連携しています。このような困難な時期に地域社会への支援や自宅にいながアクティブに活動する姿を見せてくれるなど、さまざまな形で自分のやるべきことを果たしているすべてのアスリートに感謝します。大会は延期されますが、スポーツが再び国民を鼓舞する力になると強く信じています」。

BPA マイク・シャロックCEO

「英国パラリンピック委員会は、COVID-19のパンデミックにより東京2020オリンピック・パラリンピック大会を延期する決定を全面的に支持します。この世界的な危機を阻止し、人々の健康と幸福を守るために可能な限りあらゆることを行うことこそが、いま最優先されるべきです。この決定により世界のパラリンピック選手達に明確な方向性が出たことを歓迎します。同時に、今夏東京で最高の結果を出すためにこれまでの4年間努力を続けてきた選手たちにとっては、困難な状況であることは否めません。英国パラリンピック委員会は、我々の選手が2021年に最善の準備ができるよう、緊急事態計画をすでに実行しています。この規模のイベントの延期には、膨大な要素を考慮する必要があり、東京組織委員会、IOC、IPCで活動する我々の友人が直面している課題がどんなに大きなものであるか、理解しています。今こそ、この世界的な脅威を克服するために私たち全員が協力する時です。スポーツには人々を奮い立たせ、結びつける特別な力があります。東京オリンピックとパラリンピックは、全世界にとって希望の証になると確信しています。この前例のない時代から再び世界が復活することを期待しています」。

オリンピック延期というこの決定が、東京オリンピック・パラリンピック大会を運営する素晴らしい組織であるIOC、東京2020大会組織委員会、および日本政府の準備状況によるものでは決してないことを明言いたします。

我々の思いは、COVID-19の影響を受けた家族や個人、およびコミュニティの安全を守るために最前線で働いている方々(UKスポーツ関係の医療従事者を含む)にあります。

また、長い時間をかけてハードなトレーニングを積んできた末に、キャリアと自らの達成目標に影響を受けている英国内外の何百人ものアスリートにも心を寄せています。

来年夏のオリンピックに向けてしかるべき時に、オリンピック・パラリンピックのアスリートと共に東京にうかがうことをお約束するとともに、この大会がいまだかつてない試練の時を経て再興した世界の祝典となることを期待しています。

2020/11/18 川崎市

カワサキテディ&ローズで、おうちから英国を応援しよう

ぬいぐるみとバラを飾ってニューノーマルな英国応援を

川崎市では、2021年夏に事前キャンプにやってくる英国代表チームを応援する取組のひとつとして、自宅や店舗の外から見える場所に、ぬいぐるみ(テディ)とバラの花(ローズ)を飾り、SNSで発信していくニューノーマルなおもてなし「カワサキテディ&ローズ」を始めました。

参加方法は簡単～テディベアとバラを飾るだけ

テディ(ぬいぐるみ)とバラ(ローズ)をおうちで可愛く飾ろう→写真を撮ってSNSに投稿!

お気に入りのぬいぐるみと、バラの花(生花はもちろん、造花やバラの絵、折り紙など)を、窓辺や玄関前、晴れた日にはお庭やベランダなど、外から見える場所に飾ります。その写真を、Twitter、Instagram、Facebookで、ハッシュタグ #kawasaki_teddy_rose と #gogo2020 をつけて投稿してください(写込みや位置情報にはご注意ください)。

ロックダウン中に流行した「テディベア・ハント」

2020年春、Covid-19の感染拡大によるロックダウン期間中に、英国をはじめニュージーランドやオーストラリアなどの国々で、「テディベア・ハント」が流行しました。「不要不急の外出不可」となった日常を楽しく過ごすために、家の前庭や窓辺などにテディベアやぬいぐるみを飾り付け、近所のこどもたちが散歩がてら「くま探し」をするという遊びです。

「カワサキテディ&ローズ」では、家にある「ぬいぐるみ」に加え、イングランドの国花であり、イングリッシュガーデンでも人気の「バラ」を添えて、窓辺やベランダに飾りつけることで、英国代表チームを迎えるまちの雰囲気を出すとともに、楽しいまちづくりと、地域のコミュニケーションに役立てていただくことを目指しています。



2021/03/05 川崎市

川崎市のホスタウン広報の取組が、ホスタウンアワードで「優良情報発信賞 大賞」を受賞

2月20日(土)、21日(日)に開催された「ホスタウンサミット2021」(主催:内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部)の中で、「ホスタウンアワード」の発表があり、川崎市の「カワサキテディ&ローズ」と、「英国応援動画～Message for GB teams」の取組が「優良情報発信賞 大賞」を受賞しました。

今回受賞した「優良情報発信賞」とは、ホスタウン自治体が、ホスタウンの取組を地元住民や相手国・地域に広く発信するため創意工夫を凝らして行った広報に対して贈られるものです。

受賞した取組は、次の2つです。

(1) ぬいぐるみとバラを飾って参加「カワサキテディ&ローズ」

市民誰もが気軽にのおうちから参加できる、英国に対するニューノーマルなおもてなし。参加方法は、ぬいぐるみとバラを外から見えるようにお家に飾り、その写真にハッシュタグ(#kawasaki_teddy_rose #gogb2020)をつけてSNSで発信します。

(2) ボランティアが英語でメッセージを発信「英国応援動画～Message for GB teams」

英国代表チームへエールを送るため、英国代表チーム川崎キャンプサポーター(ボランティア)による「川崎を英国の“ホーム”にする」との熱いメッセージを、川崎らしい風景とともに、動画にまとめています。完成した動画は英国へ送付すると同時に、川崎市の公式YouTubeチャンネルにて一般公開しています。



2020/07/28 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

‘Dear Tokyo’東京2020オリンピック1年前 ~Team GB からメッセージが届きました

Team GB から東京へ、「オープンレター」という形のメッセージ

東京2020オリンピックまであと1年となった2020年7月23日、英国オリンピック代表チーム Team GBが、東京に向けた最新の動画を公開しました。



「Dear Tokyo」で始まる動画のナレーションを担当するのは、テコンドーでオリンピック2度のメダリストとなった、ルタロ・ムハンマド (Lutalo Muhammad) 氏です。動画では、1964年にアジアで初めて開催された東京オリンピック競技大会が、復興と平和の祭典として世界をひとつにした様子を紹介するとともに、現在の困難の中において、来夏に延期となった東京2020大会が「世界の人々にとって希望の礎となり、東京が私たちを再び団結させる」と、ムハンマド氏が静かに熱く語りかけています。

東京2020大会 1 年前に際して

Team GBの最高経営責任者および選手団長(シェフ・ド・ミッション)からの言葉

Dear Tokyo,
We first met in October 1964;
the weather was warm, and the colours of autumn were starting to push their way through.
We travelled to see you in all your beauty for an event that would symbolize re-emergence and peace.
You united the world, bringing live images into our homes and pictures of moments we'd never forget.
Since then, you've held a very special place in our hearts.
Decades have passed but the memories live on.
We were due to meet again this summer, but nothing could have prepared us for what happened.
The world is hurting right now, and it needs time to heal.
We'll be apart for another year,
but they say that absence makes the heart grow fonder, and this much we know is true.
When the time comes, we'll be ready to return to your bright lights,
your captivating culture and your warm and passionate people.
23 July 2021 stands as a beacon of hope to the world.
An unparalleled celebration of unity, It will be you who brings us all together once again.
Until then, we'll keep preparing, keep improving and keep building.
Because Tokyo is What Makes Us.
With love, Team GB

また、動画の公開に際し、Team GBのアンディ・アンソンCEOとマーク・イングランド選手団長もコメントを寄せています。

アンディ・アンソンCEO

「これまでとまったく違った状況のもと、我々はもう一度、東京2020オリンピック大会の1年前を迎えることとなりました。誰にとっても困難であった4か月の期間、Team GBの全てのアスリートと、Team GB に関わる全ての人々が示した態度や取組について、我々は非常に誇らしく思っています。アスリートには国民の心を一つにする力があります。彼らの姿を見ることで、人々は再び来年の夏の東京を待ち望むようになるに違いありません。」

マーク・イングランド選手団長

「今日は、本来であれば、東京2020オリンピック大会の開会式前夜であるということは、とても信じ難いことです。我々が目指すのは、常にTeam GBが東京で最も準備が整ったチームになることであり、大会が延期されたとしてもそれは変わりません。ロックダウン以前のチームは、申し分のない状態にあり、貴重なパートナー、関係者、そして舞台裏で辛抱強く取り組んできたチームのおかげで、依然として、同じ状態を保っていると言っても過言ではありません。何よりもまず、この期間にTeam GBとその競技のアンバサダーを務めたアスリートに感謝したいと思います。来年の夏、彼らは国民の誇りとなるでしょう。」

英国オリンピック代表チーム (Team GB) のページ (英語) <https://www.teamgb.com/news/news-listing/50Xi8CHeucGxapHCg5kstV>

2021/04/15 川崎市

ボランティアや市職員、川崎の子どもたちから英国へ応援メッセージ動画を公開!

‘Dear GB Teams’～川崎から英国にエールを

川崎市では、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプを受入れるにあたり、英国代表チームへエールを送るため、英国代表チーム川崎キャンプサポーター（ボランティア）からのメッセージをまとめた「英国応援動画」を制作しました。

英国代表チームの選手及びスタッフの皆さんに、川崎を「第2の故郷」と感じてもらえるよう、安心してリラックスできるトレーニング環境づくりを行う意志を、“We will make Kawasaki your home（川崎を英国のホームにします）”というメッセージに込め、川崎らしい風景とともに発信します。

東京2020大会開催まであと100日～子供たちから“GOGB”

川崎市等々力陸上競技場で行われる英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプに向け、川崎市では今年、3本の応援メッセージ動画を制作しました。これら3本のうち、川崎市長以下、市職員たちによる「One Team」と、川崎市内の小学生たちによる「GOGB with Kawasaki school children」の2本の動画を、東京2020オリンピック開会100日前となる4月14日（水）に公開しました。

動画は、川崎市公式YouTubeチャンネルで公開しています。

応援メッセージ動画 (1)

「We will make Kawasaki your home」(1月19日公開)



応援メッセージ動画 (2)

「One Team」(4月14日公開)



応援メッセージ動画 (3)

「GOGB with Kawasaki school children」(4月14日公開)



2021/02/01 横浜市

Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージで、横浜から英国代表チームへ笑顔を送ります

横浜市は英国の事前キャンプ地、ホストタウンとして、これまで英国と横浜をつなぐ様々な取組を行ってきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、英国との直接的な交流が難しい状況が続いています。そこで、東京2020大会に向け英国で地道な努力を行っている、英国代表チームのみなさんに横浜から笑顔と元気を届けたい! その思いを胸に、10月31日（土）、11月1日（日）に横浜、日本大通りで開催された「秋のローズ&ガーデンマーケット2020」にて、英国等事前キャンプ・ホストタウンPRブースにご来場いただいた市民の皆様の写真撮影を実施しました。

当日は素晴らしいお天気のもと、約180組、300人以上の市民の皆様にご協力をいただき、たくさんの笑顔の写真が撮れました! ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。撮影した写真は応援メッセージと共に3篇のスライド映像に編集し、英国代表チームにもお届けします。私たちはこれからも、英国と横浜の絆を深め、さまざまな分野で交流が続くことを心から願っています。スライド映像は、こちらのURLよりご覧ください。



【Youtube 横浜市東京2020関連情報公式チャンネル】

Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 1.
<https://youtu.be/jEHi4UB3-6k>



Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 2.
<https://youtu.be/xPHYJ7VwLS8>



Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 3.
<https://youtu.be/CILRZTbHdII>



2021/06/23 横浜市

英国パラトライアスロンチームからのメッセージが届きました! ～英国と横浜 映像でつながる絆～

5月15日(土)、16日(日)、世界トライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が、徹底した新型コロナウイルスの感染防止対策の下、2年振りに無観客で開催されました。

横浜市は、英国の事前キャンプ地・ホスタウンとして、2018年より横浜大会に出場する英国トライアスロン、パラトライアスロンチームと市内小学校との交流を行ってきましたが、今回は残念ながら直接の交流は実現しませんでした。そこで少しでも応援の気持ちを伝えるべく、市民の皆様にご協力いただき制作した「Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ」を英国トライアスロンチームへお届けした所とても喜んでいただき、横浜大会に出場した英国パラトライアスロンチームのコーチと、見事メダルを獲得した選手よりお礼のビデオメッセージをいただきました。ぜひご覧ください。

【Youtube 横浜市東京2020関連情報公式チャンネル】 <https://youtu.be/3zpxlHcKTrc>(英語)
※冒頭録音状況により、音声小さくなっております。ご了承ください。



【参考和訳】



Jonathan Riall

ジョナサン・ライアル コーチ(英国パラトライアスロン ヘッドコーチ)

英国パラリンピックムーブメントと英国パラリンピックチーム、とりわけ毎年ここ横浜を訪れるトライアスロンチームをサポートして下さる横浜の皆さまに深く感謝いたします。我々は、2014年以来毎年この地を訪れており、ここが大好きです。今日は、ジョージとマイケルがレースに参加し、非常に素晴らしいレースを行い、ジョージが優勝、マイケルが2位となりました。皆さまにサポートいただくこと、横浜に戻ってこられることを、いつも嬉しく思います。8月にまた戻ってこられるようお願いしており、もちろん来年も同様で、皆さまに直接お会いできることを願っております。本当にありがとうございました。また近いうちに会いましょう



Michael Taylor

マイケル・テーラー選手(パラトライアスロン選手)

今回、このような素晴らしい大会にお招きいただき、横浜市にお礼を申し上げます。この大会は非常に素晴らしいもので、皆さまからのとても温かい歓迎の気持ちを感じることができ、十分楽しむことができました。また、お陰様で、いただいた応援メッセージ動画でモチベーションを維持することが出来ました。そして結果、銀メダルを獲得しました。本当にありがとうございます。また近い将来、戻ってこられることを願っています。



George Peasgood

ジョージ・ピースグッド選手(パラトライアスロン選手)

今週送っていただきました応援メッセージ動画ですが、横浜市の皆さんに深く感謝します。動画は本当に感動的で今回の試合に臨む上で、とても勇気づけられました。また、ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会を開催して下さったことに深く感謝いたします。競技が再開できることは非常に喜ばしく、とても素晴らしい雰囲気の中で行われました。僕もレースを非常に楽しむことができました。本当にありがとうございました。

2020/11/20 横浜市

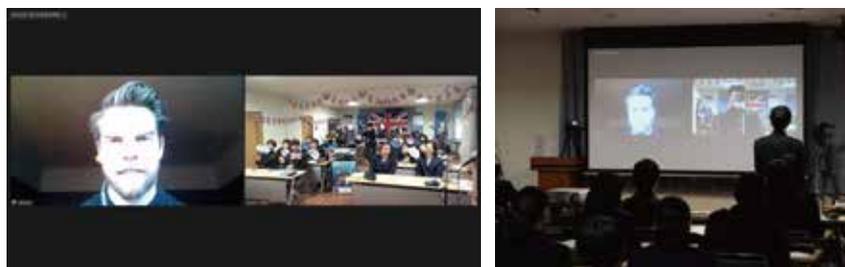
「英国オリンピック委員会 マーケティング責任者オンライン講演会」が横浜商業高等学校で行われました

2020年11月18日、横浜商業高等学校において、英国オリンピック委員会(BOA)マーケティング責任者のエド・ジョーンズ氏が、横浜商業高等学校のスポーツマネージメント科および国際学科で学ぶ1~3年生を対象に、「An introduction to the Brand and Team GB's campaigns-英国オリンピック委員会のブランド開発および東京2020大会に向けたキャンペーン」をテーマにオンラインで講演会を行いました。

はじめに、ジョーンズ氏から、英国オリンピック委員会が行ってきたブランド開発とその取組について紹介したのち、前半では、Team GBが、ブランドを通して、どのように英国国民の関心を高め、英国で最も愛されるスポーツチームとなるまでに認知度を高めてきたのかについて講演されました。

後半では、ブランド持続のために、BOAが、ロンドン2012大会のレガシーとして取り組んできた教育プログラムの紹介や、東京2020大会に向け展開されているキャンペーンなどについて紹介がありました。

最後に、生徒との質疑応答。生徒からは「日本とイギリスでのオリンピックの盛り上げ方の違いやイギリス独自の盛り上げ方を教えてほしい。」「今後数か月のうちに、自身のビジネスを立ち上げたいが、低予算で効果的に宣伝広告するにはどうすれば良いでしょうか。」など具体的な質問が飛び交い、ジョーンズ氏から丁寧な回答・アドバイスがありました。



2020/12/18 横浜市

「英国をもっと知ろう」横浜市立北山田小学校でオンライン交流会が行われました

2020年12月17日、横浜市立北山田小学校(都筑区)において、横浜市在住英国人、ジェニファー・スミスさんと5年生児童が、オンラインで交流会を行いました。

最初に、英国代表競泳チームのエイミー・ウィルモット選手から横浜市の皆さんに送られたメッセージ動画を観ました。

エイミー・ウィルモット選手は、2019年に横浜国際プールで行われた、世界水泳大会に向けた事前キャンプにも参加していた選手で、「いつも応援していただきありがとうございます。今度、横浜で行われる事前トレーニングキャンプを楽しみにしています!」とメッセージを送ってくれました。

動画を観たあとは、ジェニファーさんから、英国に関するクイズの出題。クイズの途中、ジェニファーさんは、2012年のロンドンオリンピックの思い出についてお話してくださり、大会の開会式では、音楽なども含め、演出にロンドンらしさが散りばめられ、大変印象深かったとのことでした。聞いていた児童の皆さんも、2021年に予定されている東京大会の開催がより一層楽しみになった様子でした。

クイズの後は、今回の交流会メインとなるジェスチャーゲームが始まりました。

ここでもまた、ジェニファーさんから、英語の勉強となるような英単語や簡単な英文を教わり、児童の皆さんも早速、英会話に挑戦しながらジェスチャーゲームを楽しみました。

最後は、スクリーンに映るジェニファーさんと記念撮影。その後、児童の皆さんから、ジェニファーさんにお礼の言葉が述べられ、交流会が終了しました。



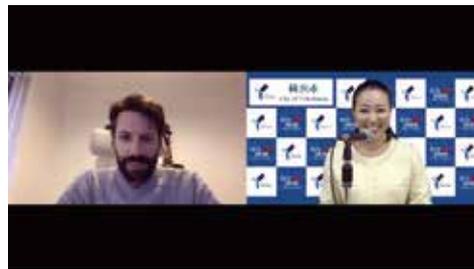
2021/01/05 横浜市

「英国の知見から学ぶ インクルーシブ・デザイン オンラインセミナー」を実施！

横浜市は、東京2020大会における英国代表チームの事前キャンプ地・英国ホストタウンとして、また、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーの取組を実施する共生社会ホストタウンとして、これまで様々な取組を行ってきました。

この取組の一環として、英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルや、ロンドンパラリンピックのレガシーとして設立されたグローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDI Hub)のご協力のもと、2020年12月に、横浜市内スポーツ団体、スポーツ施設関係者等を対象とした、英国出身講師によるオンラインセミナーを開催しました。

「スポーツ施設におけるインクルーシブ・デザイン」をテーマに、現地英国とオンラインで繋いで行われたこのセミナーは、GDI-Hub オペレーション&インクルーシブ・デザイン部門ディレクター Iain MacKinnon(イアン・マッキノン)氏を講師にお迎えし、「インクルーシブ・デザイン」というデザイン手法についての説明や、ロンドン2012大会の開催経験を踏まえたバリアフリーに関する事例をご紹介いただきました。また、質疑応答では横浜のスポーツ施設におけるバリアフリー化等についてもご意見を頂くなど、当日の聴講者にとっても有意義な機会となりました。



ご視聴になりたい言語の
QRよりご覧ください。

日本語での視聴

英語での視聴



2021/03/11 横浜市

「英国パラリンピアンからのメッセージ ～共生社会を考える～」オンラインセミナー実施！

横浜市は、東京2020大会における英国ホストタウンとして、また、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーの取組を実施する共生社会ホストタウンとして、これまで様々な取組を行ってきました。

2021年3月19日、オンライン交流の一環として、ブリティッシュカウンシル協力のもと、2016年のリオデジャネイロパラリンピックにて金メダルを獲得した、英国パラリンピアンのスージー・ロジャース氏を講師にお招きし、ご自身の経験をもとに共生社会について考えるオンラインセミナーを配信しました。

引退後、「ディスアビリティ・インクルージョン」についてグローバルに講演するなど、共生社会に関し精力的に活動されているスージーさんが現地から生出演。「ディスアビリティ・インクルージョン」とは、障害のあるすべての人に教育、雇用、余暇など社会のあらゆる分野への参画機会を確保して必要なサポートや体制を提供し、障害のある人もない人も共生し包み込んでいくという考え方。

そのためには、物や施設のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーの推進が必要で、多くの障害のある人を知る機会が大切であり、パラリンピックでのアスリートの活躍は、障害者を知る最初のきっかけになりうるし、いろいろな人が集まって協力するパラリンピックをロールモデルとし日常生活に役立てて欲しいと、直接メッセージを聞くことができました。参加者からの質問にも答えていただくなど、貴重なセミナーとなりました。



ご視聴になりたい言語の
QRよりご覧ください。

日本語での視聴

英語での視聴



2021/07/01 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック・パラリンピック英国代表チーム 横浜市・川崎市・慶應義塾大学で事前キャンプを開始

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国代表チームの事前キャンプが、横浜市・川崎市・慶應義塾大学でスタートします。今回の事前キャンプは、英国と横浜市・川崎市・慶應義塾大学の3者が平成28年より数年にわたる調整準備を重ねた結果、実現するものです。

事前キャンプの実施にあたっては、大会組織委員会や国等から示された「プレイブック」等に基づき、英国代表チームと横浜市・川崎市・慶應義塾大学が連携し、事前キャンプ期間中の感染症対策を徹底し、安全・安心な事前キャンプを運営します。



〈事前キャンプの概要〉

英国代表チーム全体の規模

【オリンピック】約600人 【パラリンピック】約200人

横浜国際プール(横浜市)

キャンプ期間：【オリンピックのみ】令和3年7月12日～8月5日

人数：約50人

競技：●水泳／競泳・アーティスティックスイミング・飛込(ダイビング)



等々力陸上競技場、補助陸上競技場(川崎市)

キャンプ期間：【オリンピック】令和3年7月9日～8月2日

【パラリンピック】令和3年8月14日～9月2日

人数：【オリンピック】約200人

【パラリンピック】約100人

競技：【オリンピック】●陸上競技 ●サッカー ●7人制ラグビー

【パラリンピック】●陸上競技



慶應義塾大学日吉キャンパス

キャンプ期間：【オリンピック】令和3年7月8日～8月7日

【パラリンピック】令和3年8月13日～9月1日

人数：【オリンピック】約400人

【パラリンピック】約100人

競技：【オリンピック】●アーチェリー ●ボクシング ●柔道
●ウエイトリフティング ●バドミントン ●フェンシング ●ホッケー
●テコンドー ●バスケットボール ●体操 ●近代五種 ●卓球 ほか

【パラリンピック】●アーチェリー ●テコンドー ●パワーリフティング
●柔道 ●車いすフェンシング



前述の3施設のほか、次の2施設も使用予定です。

横浜カントリークラブ

【利用方法】一般客が利用していないゴルフコースをランニング

【利用期間】令和3年7月16日～7月31日(早朝、夕方)

【競技及び人数】陸上競技(ロード)ほか 約30人

パシフィコ横浜ベデストリアンデッキ

【利用方法】デッキの一部を市民等との接触がないよう区分し、ジョギングやトレーニングなどの軽い運動

【利用期間】令和3年7月9日～7月28日(午前のみ)

【競技及び人数】ボクシング・サッカー・ホッケーほか 約50人

※7月1日から各施設で順次、英国オリンピック委員会(BOA)スタッフによる事前準備を実施。

※複数施設で練習する選手がいるため、各施設の人数は重複していることがあります。

※上記の内容は現時点の情報であり、今後、変更となる可能性があります。

2021/07/01 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

安心・安全な事前キャンプ運営に向けた感染症対策

英国代表チームの皆様が安心して事前キャンプを実施し、市民の皆様も安心して英国代表チームの皆様をお迎えしてもらうため、三密の回避、社会的距離の確保、マスクの着用、手洗い・消毒などの基本的対策を徹底するとともに、「プレイブック」(IOC、IPC、大会組織委員会)や国からの指示等に基づき、主に次の対策に取り組みます。

なお、昨年末以降の変異株の発生・流行など、日々刻々と変化する状況や求められる対策等に適切に対応してまいります。(下記の対策は令和3年6月30日時点の内容です。)

(1) 英国代表チームの出入国時における感染症対策

- 出発2週間前から隔離措置を始め、隔離生活期間中に合わせて5回検査を実施する。
- 出国前3日間、毎日検査を実施し、陰性証明を取得し、検疫又は入国審査時に提出する。
- 入国前14日間の健康モニタリングを提出する。
- 入国時、空港にて検査を受検する(検査結果判明まで指示した待機場所に留まる)。



(2) 英国代表チームの事前キャンプ期間中の感染症対策

(ア) スクリーニング検査

- 事前キャンプ地に滞在中の選手等に対し、毎日検査を実施する。

(イ) 選手等の行動管理

- 選手等の行動は、宿泊施設と練習会場等の用務先の往復のみに限定する。

(イ) 選手等の行動管理

- 公共交通機関は利用せず、専用車両で移動する。
- 宿泊施設において、他の宿泊客との接触を避けるため、宿泊フロアや動線を分離する。
- 食事は他の宿泊客等との接触を避け、宿泊施設内の専用会場で摂ることを原則とする。
- 練習会場は、貸切を原則とし、関係者以外の立入りは不可とする。

(3) 事前キャンプ関係者の感染症対策

- 事前キャンプに関わる市職員や宿泊施設・練習会場などの関係者には、ワクチン接種(任意)や、活動に従事する14日前から検温・体調チェックを実施する。
- 英国代表チームとの接触の度合いに応じて、定期的に検査を実施する。

2021/07/09 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック・パラリンピック英国事前キャンプに向けて 英国オリンピック・パラリンピック代表チーム団長がコメントを発表



横浜市・川崎市・慶應義塾大学で行われる英国代表チームの事前キャンプに向けて、英国オリンピック代表チーム団長のマーク・イングランド氏、英国パラリンピック代表チーム団長のペニー・ブリスコー氏がコメントを発表しました。

英国代表チームの皆様が、大会で最高のパフォーマンスを発揮していただけるよう、横浜市・川崎市・慶應義塾大学で連携し、感染症対策を徹底して事前キャンプを運営します。

【英国オリンピック委員会 参考和訳】

東京2020オリンピック英国代表チーム選手団長、マーク・イングランド (Mark England) 氏からのコメントです。

「大切なパートナーである横浜市・川崎市・慶應義塾大学のご支援のおかげで、オリンピック開催前に英国代表チームの選手にとって重要な事前キャンプを実施できることになり、心より御礼申し上げます。」

「私たちは市民、選手、選手団の健康と安全を最優先に考えております。また、私たちはこの後訪日しますが、全員の安全を守るために事前キャンプ関係者の皆様が準備を重ねてくれたことに感謝いたします。」

東京2020組織委員会と日本政府によって共同製作された東京2020大会の公式「プレイブック」と「ホストタウン等における選手等受入れマニュアル」(内閣官房)に基づいて、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、英国との協力のもと、安全・安心な事前キャンプを運営します。オリンピック・パラリンピック英国代表チームと市民の全員の健康と安全を守るため、「プレイブック」等に基づいて、次のとおり新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。

① 選手団の出入国時における感染症対策

- ・入国前に14日間の自己隔離を実施し、新型コロナウイルス検査を計5回実施する。陰性結果証明書を取得し、検疫または入国審査時に提出する。
- ・入国前に14日間の健康観察を実施し、その記録を提出する。
- ・空港到着時、新型コロナウイルス検査を受ける(検査結果が判明するまで専用の場所で待機する)。

② 事前キャンプ期間中の感染症対策

- a.スクリーニング検査:キャンプ地に滞在している選手等は、事前キャンプ期間中を通じて毎日スクリーニング検査を受ける。
- b.選手団の行動管理:選手等の移動は、宿泊施設と練習会場などの用務先の往復のみに限定する。
- c.市民との接触を避けるための対策:選手等の移動には、公共交通機関ではなく専用車両を使用する。他の宿泊客との接触を避けるため、チームの宿泊フロアや動線を分離する。食事は専用の食事室のみで行う。

③ ホストタウン関係者の感染症対策

ホストタウンの事前キャンプに従事する市職員、宿泊施設や練習会場の関係者は、ワクチン接種を受け(任意)、従事前14日間の健康観察を実施する(毎日の検温を含む)。接触の度合いに応じて、定期的にスクリーニング検査を受ける。

【英国パラリンピック委員会 参考和訳】

東京2020パラリンピック英国選手団長、ペニー・ブリスコー(Penny Briscoe)氏からのコメントです。

「選手の事前キャンプを運営するため、パートナーである横浜市・川崎市・慶應義塾大学と緊密に連携・協力してきました。また、英国と日本のチーム全体で、選手団や市民の健康と安全を最優先に考え、入念な計画を立ててきました。」

『プレイブック』に基づき、チーム全員の安全を守るために、検査を含むさまざまな感染症対策を徹底します。パートナーの皆様との緊密な協力のおかげで事前キャンプを実施できることになり、心より御礼申し上げます。選手たちは、皆様が私たちのためにご尽力いただいたことに感謝しており、訪日を心待ちにしております。」

【原文】

Team GB Chef de Mission for the Tokyo Olympic Games, Mark England, said:

“We are extremely proud and grateful for the ongoing support that we have received from our valued partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University in ensuring that we can provide the optimum Preparation Camp for Team GB athletes before they compete at the Tokyo Olympic Games. ”

“The health and safety of the Japanese public and of the athletes and our delegation remains our number one priority and we know that our Preparation Camp partners have gone above and beyond to guarantee the safety of everyone when we arrive in country later this month.”

We will fully comply with all COVID-19 Countermeasures pertaining to the official Games ‘Playbooks’ produced by Tokyo 2020/Japanese government and ‘Host Town Acceptance Manual’ to deliver safe and secure preparation camps in cooperation with the UK.

To safeguard all members of the Team GB and ParalympicsGB and the local residents in Japan, we will fully comply with COVID-19 Countermeasures upon the official Games ‘Playbooks’ (IOC, IPC, Tokyo 2020) and ‘Host Town Acceptance Manual’ (Cabinet Secretariat) as follows;

① Measures upon entry into and departure from Japan imposed on the delegation

All delegates need to self-isolate 14 days prior to the departure and have five COVID tests in total. They must obtain negative test certificate and submit it to the Quarantine Officer and/or at immigration control when they arrive in Japan.

All delegates need to do 14 days of health monitoring prior to departure and submit the record.

All delegates need to complete COVID-19 testing on arrival of the airport. (They will wait at the designated waiting area to get their test results).

② Measures during the Preparation Camps

a. Screening Test – All delegates who stay at camp sites will complete screening tests every day during their preparation camps.

b. Behavioral Management of the delegation – All delegates are restricted to travel only between their accommodation venues and their business destinations such as training venues.

c. Measures to avoid contact with the local residents – All delegates will use dedicated Games vehicles and do not use public transport. Any floors with Teams’ rooms booked will be blocked and separate flows to avoid contact with other hotel guests. The delegation also use their private dining room

③ Measures for Host Town staff

All staff members, who engage the preparation camps, in local governments, accommodation venues and training venues at Host Towns will be vaccinated (optional) and do 14 days of health monitoring including taking daily body temperatures. Also, they will have regular screening tests, depending on how close they get.

Ends

ParalympicsGB Chef de Mission for the Tokyo Paralympic Games, Penny Briscoe, said:

“We have been working closely and collaboratively with our partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University to ensure that we can deliver successful Preparation facilities for our athletes. There has been a lot of planning across our teams in the UK and in Japan to prioritise the safety of our delegation and the health and safety of the Japanese public.”

“We will go beyond the measures outlined in the playbooks in a number of areas including testing to deliver a safe environment for the team. We are very grateful to our Japanese partners for working so closely with us to achieve this and our athletes are very aware of how hard everyone is working on their behalf and are looking forward to arriving in Japan.”

2021/07/14 横浜市

ようこそ英国水泳代表チーム！ 北山田駅前広場に「GO GB 2020」のデザインマンホール設置！

事前キャンプに合わせ、『GO GB! ガンバレ英国!』のロゴマークをデザインした11枚のマンホールの蓋を北山田駅前広場に設置しました。

区民一同、東京2020大会に向けて練習をしている英国水泳選手の皆様にエール送ります。

コロナの影響に伴い、選手のみなさんは公共交通機関も利用できないため、直接見ていただくことはできませんでしたが、横浜国際プールの練習会場内にレプリカを展示し、英国選手団の皆様にご覧いただきました。



2021/07/20 横浜市

都筑区内の小学校が 英国オリンピック水泳代表チームと交流を行いました！！

いよいよ始まる東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、7月12日から英国水泳代表チームが横浜国際プールで事前キャンプを行っています。

都筑区のオリンピック・パラリンピック教育推進校である東山田小学校、北山田小学校、牛久保小学校の児童が、英国水泳選手やコーチ等とオンラインで交流したほか、GO GB旗など3種類の旗にチームを歓迎し応援するメッセージを記入して贈る取組を実施しました。

オンライン交流では、児童から選手たちに熱心に質問した後、心こもったエールをおくるなど、貴重な交流の機会となりました。



2021/07/21 横浜市

東山田小学校の児童が英国オリンピック水泳代表チームを サプライズでお見送りしました！！

7月20日、横浜国際プールで事前キャンプを行った英国オリンピック水泳代表チームが、選手村に向けて出発しました！

英国代表水泳チームが、横浜国際プールでの練習が最後になったこの日、サプライズで東山田小学校5年生と6年生が校庭から英国選手のお見送りをしてくれました。

バスに乗り込む英国の選手のみなさんは、思いがけない突然の交流にとっても驚いていました。

フェンス越しに子どもたちは手旗を振りながら「GO GB! (ゴージービー・がんばれ、英国)」コールで選手にエールを送り、バスに乗り込む前に選手達も、子供たちに向けて手を振り、とても嬉しそうにエールに応えてくれました。

選手を見送った子どもたちは、短い時間でしたがオリンピック代表選手を間近に見る貴重な機会に興奮していました。



2021/07/28 川崎市

英国オリンピック代表チームが、川崎市等々力競技場での事前キャンプ期間中に公開練習を開催しました

7月17日(土)、英国代表男子ラグビーチームは公開練習を開催し、川崎市内のラグビースクールに通う小中学生たち約150人が練習を見学しました。

公開練習は午前10時30分から約1時間行われました。キャプテンのトム・ミッチェル選手は、「おはようございます」と日本語で挨拶をしたあと、英国代表チームへの応援を呼びかけました。練習を見学した子どもたちからは、「(オリンピック選手を)実際に見ることができて良かった!」、「みんな足が速くて驚いた」と、喜びの声が聞かれました。

7月25日(日)に行われた陸上競技チームの公開練習では、川崎市立学校の陸上部部員と、市内陸上クラブの選手及び引率者ほか約340名がスタンドからオリンピック直前の選手たちの練習を見学しました。

観覧者は、受付で検温・手指消毒を済ませたあと、2階席スタンドから選手たちの練習を見学しました。声を出さないよう、拍手や旗を振るなどして、静かに選手たちを応援しました。



2021/08/03 川崎市

英国代表チーム事前キャンプでボランティアの「おもてなし」が大好評

事前キャンプを陰ながら支えるサポーター

英国オリンピック代表チームの事前キャンプでは、約100名のボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」が、選手たちの受け入れ活動を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、基本的に選手たちに直接のサポートを行うことができませんが、選手車両の誘導や、競技用具のセットアップなど、練習環境を整えるため、さまざまな場面で活躍しました。

創意工夫を凝らした「おもてなし」に選手たちも大喜び

選手たちと距離を保ちながらサポートを行うには、さまざまな工夫と努力を要しました。そのような状況下でも、自ら積極的に活動を楽しみながら、選手たちを「おもてなし」できるように努めました。メッセージボードに選手たちへのエールや問いかけをつづり、ささやかなコミュニケーションに役立てました。

選手たちのSNSには、こうした様子が写真や動画で数多くアップロードされていました。サポーターの熱い想いは、選手たちにしっかり届いていたようです。



©Photo by Sam Mellish_Team_GB



©Photo by Sam Mellish_Team_GB

2021/08/05 川崎市

英国オリンピック代表選手から感謝のメッセージが届きました

川崎市での事前キャンプを終えた選手を代表して、サッカー女子代表チームのジル・スコット選手と、ラグビー男子代表チームのキャプテン、トム・ミッチェル選手からビデオメッセージが届きました。

ジル・スコット選手より

“等々力陸上競技場のスタッフのみなさんに心から感謝をお伝えしたいと思います。とても細やかで素晴らしいサポートをいただき、本当にありがとうございます。私たちが試合で活躍できるのは、みなさんのサポートのおかげです”

181cmの長身ミッドフィルダー、ジル・スコット選手のプロフィール(英語)はこちら。
<https://www.teamgb.com/athlete/jill-scott/2J7IYV7yIvkvCDTdeHeCR>

トム・ミッチェル選手より

“Team GBラグビー男子セブンズに対する川崎市等々力陸上競技場でのおもてなしに、大いに感謝しています。事前キャンプでは素晴らしい時間を過ごすことができ、十分な試合の準備ができました”

2大会連続キャプテンを務めた、トム・ミッチェル選手のプロフィール(英語)はこちらから。
<https://www.teamgb.com/athlete/tom-mitchell/3Aeo1avytHU4ouixVg6KNr>

- サッカー女子7月9日(金)から16日(金)までトレーニングを行い、予選リーグを突破後、準々決勝で、オーストラリアに延長戦の末に 敗れ、7位入賞となりました。
- ラグビー男子は、7月16日(金)から20日(金)まで等々力陸上競技場でトレーニングを準決勝でニュージーランド(銀メダル)に敗れ、3位決定戦でアルゼンチン(銅メダル)に惜敗、4位入賞となりました。



2021/10/06 川崎市

英国パラ陸上選手にスクールバスを提供した市立田島支援学校に記念品が届きました

英国パラリンピック代表チームの事前キャンプで、夏休み期間中のスクールバスを活用

川崎市では、英国パラリンピック代表チームの事前キャンプ期間中、選手たちが宿泊先(横浜市内)と等々力陸上競技場を往復する交通手段として、市立田島支援学校のスクールバス(福祉バス)を活用しました。

普段は支援学校の児童・生徒たちを送迎するために使われているスクールバスですが、夏休み期間を利用して、英国応援の合言葉「GO GB」のロゴや川崎市英国事前キャンプPR大使である「きかんしゃトーマスとなかまたち」のイラストが装飾された特別仕様で、英国パラ陸上選手たちに提供されました。

英国パラリンピック代表チーム選手たちから届いたメッセージ動画とサイン入りTシャツなどを受け取った増田校長は、「英国のパラ陸上選手たちのために、当校のスクールバスがお役に立てるととても嬉しい」と喜んでいました。また、堀田教頭からは、「生徒や保護者のみなさん、関係者の方たちにも見ていただけるよう、式典の時に展示したい」という言葉がありました。



2021/12/01 横浜市

英国事前キャンプ横浜市ボランティア 「横浜ホストタウンサポーター」感謝会が行われました！

10月31日(日)、「横浜ホストタウンサポーター」の感謝会を行いました。開港以来英国との縁の地・横浜市イギリス館を会場に、横浜市庁舎や都筑区で巡回展示された、英国代表チームからの感謝が沢山書き込まれたサインの数々や、実際に英国チームがキャンプで使用した装飾、活動中サポーターの方々に作成いただいたプラカードなどを展示。英国らしさやキャンプ当時の雰囲気が出る中、皆さんにも活動時のユニフォームを着てお集まりいただき、事前キャンプ終了以来の久しぶりの再会にまるで同窓会のような和やかな雰囲気、感謝会がスタートしました。

まず初めに、英国代表チーム事前キャンプを写真とともに振り返り。様々な記憶が懐かしくよみがえった後は、感謝を込めて、英国代表チームと横浜市からサポーターの皆さまへ記念品贈呈式です。英国オリンピック委員会からはキャンプで使用されたポスターやネックストラップ、英国パラリンピック委員会からは一人ずつ名前が入った感謝状など、ボランティア活動の記念となる品々が贈られ、横浜市からは横浜国際プールで英国チームが使用した大きな横断幕をリサイクルして製作したエコトートバックと活動記録集などを贈呈。お一人ずつコメントいただき、活動時の思い出や印象に残ったエピソードなどを共有いただきました。最後は英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会など計6名の方々から、英国事前キャンプを2か月に渡り毎日力強く支えてくださったサポーターの方々に、10分以上に渡る感謝のビデオメッセージを放映。GO GB 2020のフラッグを手に全員で記念撮影を行い、感謝会が終了しました。

あっという間の一時間半でしたが、皆さま笑顔で、またいつの日か再会できることを祈りつつ会場を後にしました。



2021/11/25 川崎市

事前キャンプでのボランティア活動を振り返る 「サポーターサンクスデー」を開催しました

写真と映像で、夏の思い出を共有しました

川崎市では、事前キャンプでボランティアとして活躍した「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」のみなさんと活動を振り返る「サポーターサンクスデー」を、11月21日(日)に川崎市中原区の「エポックなかはら」で開催しました。

事前キャンプ最終日から2ヶ月以上が経ち、久しぶりの再会となりましたが、オンライン参加者も含め66名が集まりました。

第一部:事前キャンプの記録映像を特別上映

英国代表チームの関係者3名からのメッセージ動画に続き、市で作成した事前キャンプのアーカイブ映像(約24分間)が上映されました。

また、英国代表チームから事前に提供があったポスターやグッズ等の記念品抽選会も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

第二部:サポーターによる自主企画イベント

グループ対抗戦折り鶴の早折り対決「GO KW! Origami Championship」が行われました。

事前キャンプ期間中は、英国代表チームへの「おもてなし」として、多くの折り紙作品をプレゼントし、大変喜ばれたことから、生まれたこの企画。10分間で折り鶴をいくつ折れるか、景品をかけて真剣な勝負が繰り広げられました。

事前キャンプ受入れ時のサポーター活動やおもてなしの様子を再現

今回のイベントでは、英国代表チーム川崎キャンプ当時の装飾などを再現した展示物を用意しました。約2か月の活動期間中、サポーターのみなさんはそれぞれ従事した活動内容も、一緒に活動したメンバーも異なることから、過去の思い出を全員で共有できるように、工夫しました。サポーターによる自主企画イベントとあわせ、ボランティア精神や企画力、実行力も見事に再現された会となりました。



2021/11/19 慶應義塾大学

横浜初等部生と英国パラリンピック代表選手の交流会開催

10月27日(水)、横浜初等部の生徒と英国パラリンピック代表のクリステン・クームス選手の交流会が開催されました。

クームス選手は日吉キャンパスでの事前練習の後にバドミントン低身長部で東京2020パラリンピック大会に出場し、銅メダルを獲得しました。交流会のきっかけとなったのは、横浜初等部生が日吉キャンパスを訪れる英国代表選手たちに贈るために作成した折り紙メダルでした。新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定していた一貫教育校生徒と選手の交流会ができなくなりましたが、大学生ボランティア団体KEIO 2020 projectの学生と横浜初等部教員の発案で折り紙メダルを募集したところ、100個以上のメダルが集まりました。クームス選手が交流を望む子どもたちの手紙や写真とともに置かれた折り紙メダルを、その気持ちとともに受けとってくださったことで、オンライン交流会が実現しました。

KEIO 2020 projectは体育研究所主催の英国オリンピック・パラリンピック代表選手団サポート組織で、慶應義塾大学の学生が中心となり、日吉キャンパスでの英国選手団事前キャンプ受け入れが決定した2016年から活動しています。その功績により、9月には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会「ホストタウン功労者」に選ばれ、丸川珠代オリンピック・パラリンピック担当大臣から感謝状が贈られました。今回の交流会はKEIO 2020 projectの学生の協力により、本番の前にリハーサル日を設けるなど入念な準備がおこなわれました。リハーサルは本番でクームス選手と話す35名の4,5,6年生の生徒たちがオンラインで集まり、当日の流れに沿って大学生と一緒に英語での質問の練習、Zoomの使い方など事前確認をしました。実際の練習に入る前や練習後に、大学生と横浜初等部生で少人数のグループに分かれて自己紹介や雑談をする時間が設けられるなど、子どもたちの緊張をほぐす工夫がこらされていました。義塾の大学生と一貫教育校生徒の交流の中でも、小大連携という貴重な事例となりました。

視聴する低学年の生徒たちも考慮し、英語と日本語両方でおこなわれた交流会当日は、子どもたちからクームス選手への銅メダル獲得のお祝いの言葉に始まり、クームス選手の好きな日本食は何か、など視聴者も参加できるクイズが行われました。続けて普段クームス選手がおこなっているエクササイズを参加者みんなで行い、最後に質疑応答、神武直彦横浜初等部長によるお礼の言葉で終了となりました。クイズの中ではクームス選手の出身地のデヴォン州が登場し、ぜひ訪れてほしい場所として紹介されました。クームス選手はメダルを披露し、緊張を和らげる方法や落ち込んだ時に立ち直る方法、今のパラスポーツに対して子どもたちにもっと今回のイベントでは、英国代表チーム川崎キャンプ当時の装飾などを再現した展示物を用意しました。約2か月の活動期間中、サポーターのみなさんはそれぞれ従事した活動内容も、一緒に活動したメンバーも異なることから、過去の思い出を全員で共有できるように、工夫しました。サポーターによる自主企画イベントとあわせ、ボランティア精神や企画力、実行力も見事に再現された会となりました。



上: 交流会での記念撮影
下: 折り紙メダルとKEIO2020projectメンバー

2021/11/05 横浜市

英国代表チームから横浜市へ、感謝を込めた記念品が贈呈されました!

事前キャンプが無事終わり、英国代表チームから事前キャンプ受入の感謝を込めて、選手のサイン入り写真パネルやユニフォームなど、様々な記念品が贈呈されました。

贈呈された記念品や、英国代表チームが練習施設や宿泊施設で装飾に使用していた物品は、2021年9月から10月にかけて、横浜市庁舎アトリウムや横浜国際プール、都筑区役所等で展示されました。横断幕や色紙には、サインだけでなく選手たちのあたたかい感謝のメッセージがたくさん書き込まれ、中には日本語で「Arigato」の文字も。展示の際は事前キャンプ中の写真も飾られ、市庁舎などを訪れた多くの方々の目に触れる機会となりました。

記念品の一部は練習施設となった横浜国際プールや横浜カントリークラブ、宿泊施設、代表チームと交流した小学校に寄贈されました。横浜国際プールでは選手たちのサインなどが常設展示されていますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



横浜市・川崎市・慶應義塾大学に対し、事前キャンプを終えた英国オリンピック委員会CEOアンディ・アンソン氏、英国パラリンピック委員会CEOマイク・シャロック氏から、感謝のメッセージが届きました。

英国オリンピック委員会最高経営責任者(CEO) アンディ・アンソン氏

東京2020オリンピック競技大会は、関係者の懸命な努力と選手たちの並外れた能力を結集した、他に類を見ない大会として人々の記憶に刻まれることでしょう。通常のオリンピックの開催でさえ困難なものではありますが、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが世界中で発生し、英国代表チームが目指す目標をすべて達成することは大変難しく思えました。

しかしながら、パートナーである慶應義塾大学、川崎市、横浜市による熱心で献身的なサポートのおかげで、私たちは世界トップレベルの総合的な環境でトレーニングを実施することができました。私たちが直面するすべての課題や問題を解決するために、パートナーの皆様はチーム一丸となってそれぞれの専門知識を結集し、一生懸命に、積極的にサポートしていただきました。皆様のおかげがあったからこそ、英国代表チームは東京2020で素晴らしい成功を収めることができました。

パートナーの皆様が、私たちのために膨大な時間を費やし、尽力いただいたことに感謝します。東京2020の思い出を心に刻み、友好関係が未永く続くことを願っています。

ありがとうございます。 英国オリンピック委員会CEO アンディ・アンソン



英国オリンピック委員会 CEO アンディ・アンソン氏

The Tokyo 2020 Olympic Games will be remembered as a Games like no other – one of sheer human endeavour and extraordinary sporting prowess. They were always going to be a highly complex Olympic Games to deliver and that was before the Covid-19 pandemic, which complicated further the task of delivering on all of Team GB's ambitious targets. At the heart of our operation was a comprehensive and world-leading performance environment that we delivered with the integral support, enthusiasm and commitment of our partners at Keio University and the cities of Kawasaki and Yokohama. The support, expertise, diligence and positivity that their teams brought to every task and challenge we faced was vital to the ultimate success of Team GB at Tokyo 2020 – we couldn't have done it without them.

It is not just the time and effort from our partners in Tokyo that was so important but we will be forever grateful for the friendships that have been formed that will last well into the future. We hope that it is a future inspired by the memories of Tokyo 2020.

Arigato gozaimasu,

Andy Anson CEO, British Olympic Association

英国パラリンピック委員会最高経営責任者(CEO) マイク・シャロック氏

英国パラリンピック委員会は、横浜市・川崎市・慶應義塾大学との素晴らしいパートナーシップを通じて、英国代表チームの事前キャンプを実施させていただいたことを非常に誇りに感じております。今回の事前キャンプは、大会に向けた重要な要素であり、チームの成功にも不可欠なものでした。パートナーの皆様は、コロナ禍の困難で複雑な状況の中、世界トップレベルの施設と最高の環境を英国代表選手およびスタッフに提供してくださいました。

更に、提供いただいた施設・環境では、『スポーツを通じ、障害を持つ人々にとってより良い世界をインスパイアする』という我々の理念が反映されていました。施設のアクセシビリティの改修を通じて、また、市民の皆様とのパンデミック前の対面での交流や現在のオンラインでの交流イベントを通じて、お互いに学びや変化のきっかけを得ることができました。皆様方の懸命なご尽力と温かい心遣いに深く感謝申し上げます。また、このパートナーシップが今後も未永く続くことを期待しております。

ありがとうございます。 英国パラリンピック委員会CEO マイク・シャロック



英国パラリンピック委員会 CEO マイク・シャロック氏

The British Paralympic Association is incredibly proud to have worked with Keio University and the cities of Yokohama City and Kawasaki City to deliver our pre-Games Preparation Camp. This camp was an essential part of our Games time operations and vital to the success of our team at the Games. Our partners embraced the complexity that the pandemic posed and delivered world class facilities and the best possible environment for our athletes and staff to prepare in.

More than that though, they embraced our vision to use sport to inspire a better world for disabled people. Through accessibility modifications to facilities and engagement events with local citizens both in person pre pandemic and now virtually we have inspired change and learnt from each other. We are very grateful for the warmth and enthusiasm of everyone we worked with and look forward to continuing our work together in the future.

Arigato gozaimasu,

Mike Sharrock CEO, British Paralympic Association

**東京2020大会
英国代表チーム事前キャンプ応援サイト
GO GB 2020
アーカイブ
2018年8月～2022年2月**

発行日：2022年2月

発行者：横浜市
川崎市
慶應義塾大学